高槻市文化財年報

平成８年度

Ⅰ　埋蔵文化財の調査 …… 1

1　平成８年度の調査

2　調査の概要

嶋上郡衙跡の調査(1)　橋本　久和　川村　雪絵

嶋上郡衙跡の調査(2)　木曽　広

高槻城三ノ丸跡の調査　橋本　久和　高橋　公一

新池遺跡の調査　鐘ヶ江一朗

萩谷銅鉱山跡の調査　宮崎　康雄

Ⅱ　文化財保護啓発事業 …… 32

１９９８年２月

高槻市教育委員会

高槻市文化財年報

平成８年度

Ⅰ　埋蔵文化財の調査

1　平成８年度の調査

平成８年度における土木工事にともなう埋蔵文化財発掘調査届出・通知件数は繰り越し分を含めて100件で、このうち調査件数は87件である。

届出別にみると、「個人住宅の増改築」が32件と横ばい傾向にあり、道路改修・上下水道整備など主要な公共工事は21件と増加している。「共同住宅」は６件で減少傾向にあり、駐車場・倉庫等は４件、造成工事等は８件である。全体をとおして、本市では公共工事にともなう発掘調査の件数は増加傾向にあるが、民間の開発にともなう発掘調査は横ばい傾向にあることがわかる（表１）。

遺跡別にみると、嶋上郡衙跡が28件と圧倒的に多く、ついで宮之川原遺跡・天川遺跡・高槻城跡の順になっている（表２）。住宅密集地の個人住宅建替えにともなう調査が多く、天川遺跡では共同住宅等、農地からの転用がめだつ。また、宮之川原遺跡では調査件数が多くなっているが、この地域で公共下水道の整備がすすめられていることを反映している。なお、平成８年度に実施した調査の概略については一覧表にまとめた（表３）。

表１　平成８年度　届出別調査件数

個人住宅	共同住宅	駐車場・倉庫等	造成工事等	道路・水路改修	上下水道整備	その他	計
32	6	4	8	4	17	16	87

表２　平成８年度　遺跡別調査件数

遺跡名	件数	遺跡名	件数	遺跡名	件数
嶋上郡衙跡	28	津之江南遺跡	1	芝生遺跡	1
郡家本町遺跡	2	富田遺跡	1	大塚西遺跡	1
郡家今城遺跡	5	中城遺跡	2	安満遺跡	4
今城塚古墳	3	萩谷銅鉱山跡	1	安満北遺跡	1
岡本山古墓群	1	宮之川原遺跡	9	古曽部焼窯跡	1
宮田遺跡	1	大蔵司遺跡	3	梶原南遺跡	3
氷室塚古墳	3	上田部遺跡	1	梶原寺跡	2
新池遺跡	2	高槻城跡	4	合計	87
塚原古墳群	2	天川遺跡	5		

No.	遺跡名（地区）	所　在　地	届　出　者	用　　途
1	嶋上郡衙跡	川西町一丁目	高槻市下水道部	下水道建設
2	7－J・N	清福寺町	高槻市下水道部	下水道建設
3	48－K	川西町一丁目950-5	佐村紀夫・千尋	個人住宅建設
4	38－B・F	清福寺町917-5	太田晴巳	共同住宅建設
5	44－B	郡家新町346	岩本和夫	個人住宅建設
6	84－B	今城町164-27	笠松克好	個人住宅建設
7	48－K	川西町一丁目953-12	風呂本敬三	個人住宅建設
8	85－I	今城町187-12	佐土原心一	個人住宅建設
9	48－D	川西町一丁目954-2	寺田隆彰	個人住宅建設
10	44－E・I	郡家新町地内	高槻市下水道部	下水道建設
11	45－K	郡家新町261	関西産業	宅地造成
12	56－D	川西町一丁目974-1	高槻市下水道部	送水管敷設等
13	48－G	川西町一丁目956-10他	福田重昭	個人住宅建設
14	48－F	川西町一丁目959-8他	丸賀正晴	個人住宅建設
15	48－G	川西町一丁目954-13	春日正彦	個人住宅建設
16	48－G	川西町一丁目1088-12	堺永治	個人住宅建設
17	15－G・H	郡家本町314-1他	コスモ石油	給油所建設
18	75－O	郡家新町163-33	山田肇	個人住宅建設
19	17－F・J	清福寺町地内	高槻市下水道部	下水道建設
20	47－D・H	川西町一丁目地内	高槻市下水道部	下水道建設
21	44－D・H	郡家新町地内	高槻市下水道部	下水道建設
22		郡家新町500の一部	大阪府水道	露天駐車場建設
23	45－K	郡家新町255-1・2	関西産業	道路整備
24	64－B	郡家新町358-1他	高槻市農林課	農道建設
25	38－G	清福寺町969-26	内藤泰明	個人住宅建設
26	27－F	清福寺町911	長谷川喜伯	農機具小屋建設
27	35－H	郡家新町255-1他	松下電子工業	水道管埋設
28	45－A・E他	郡家新町255-1他	松下電子工業	ネット新設
29	宮之川原遺跡	宮之川原元町地内	高槻市下水道部	下水道建設
30	〃	宮之川原五丁目地内	高槻市下水道部	下水道建設
31	〃	宮之川原五丁目305-41	末波幸雄	個人住宅建設
32	〃	宮之川原五丁目11～27	高槻市下水道部	下水道建設
33	〃	宮之川原五丁目32・33	高槻市下水道部	下水道建設
34	〃	宮之川原四丁目他	高槻市下水道部	下水道建設
35	〃	宮之川原五丁目505-27	岩本政和	個人住宅建設
36	〃	宮之川原五丁目505-31	井ノ本忠信	個人住宅建設
37	〃	宮之川原五丁目900-1	奥野博	個人住宅建設
38	大蔵司遺跡	浦堂一丁目279-2他	山本麻夫	個人住宅建設
39	〃	大蔵司三丁目212-1他	山口孝治	宅地造成
40	〃	大蔵司三丁目212-1一部	山口孝治	宅地造成
41	上田部遺跡	上田辺町254	高間佐太男	個人住宅建設
42	高槻城跡	野見町1492-1	大阪府警	庁舎増築
43	〃	出丸町970-1	中野直	個人住宅建設
44	〃	城内町1001-14	稲葉嘉弘	個人住宅建設

表3　平成8年度調査一覧(1)

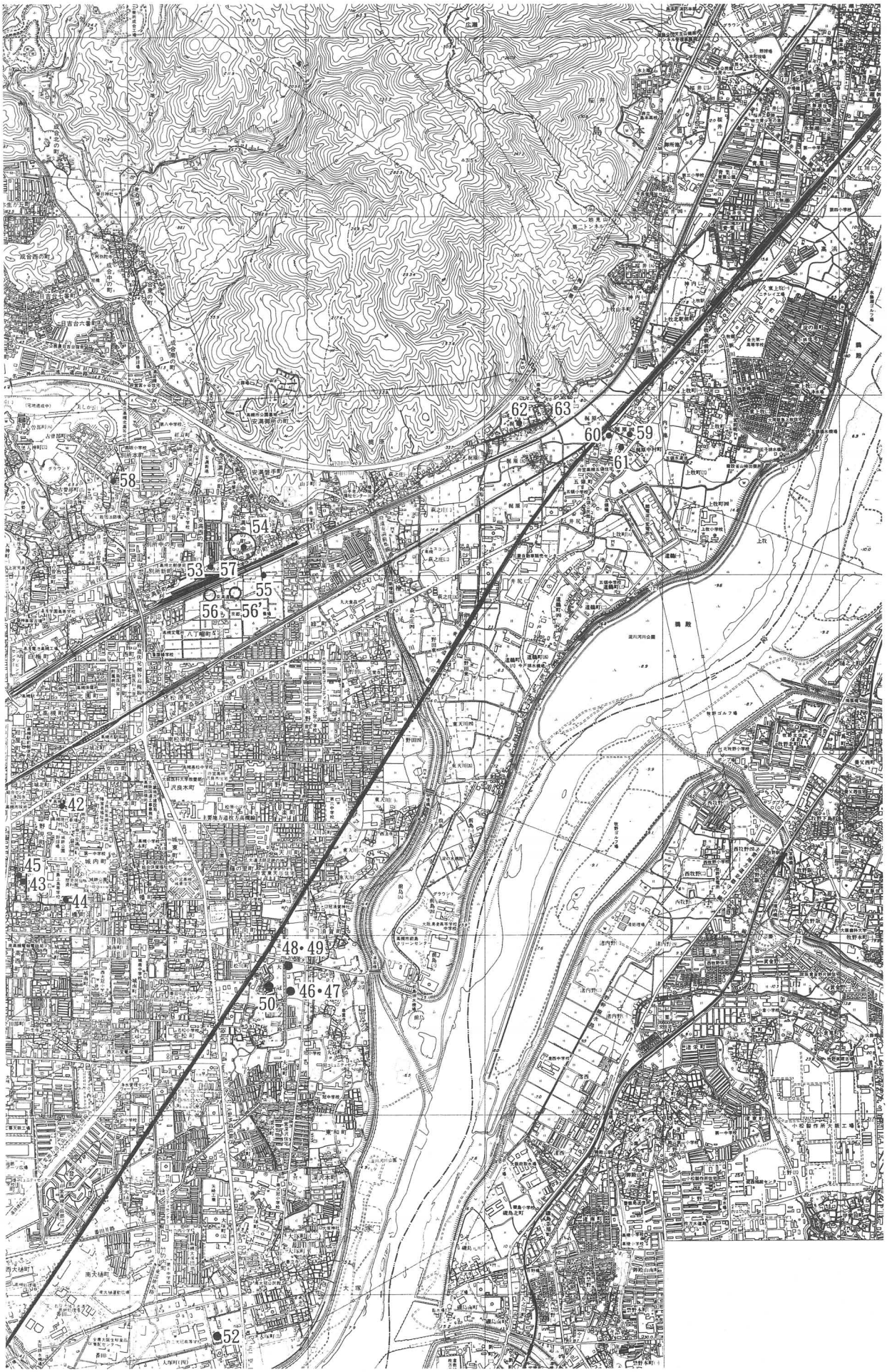
面積（㎡）	担　当	調 査 期 間	備　　考
537.9	高　橋	8.3.15～6.30	遺構・遺物なし　48－F･J地区
226.4	鐘ヶ江	8.3.15～4.30	遺構・遺物なし
242.97	橋　本	8.4.25	遺構・遺物なし
1,162.0	橋　本	8.5. 7～7.1	本書に(1)として掲載
231.41	橋　本	8.5.15～5.21	嶋上遺跡群21に掲載
107.55	橋　本	8.5.20	嶋上遺跡群21に掲載
61.55	高　橋	8.5.20	嶋上遺跡群21に掲載
62.66	橋　本	8.6.10	嶋上遺跡群21に掲載
126.15	橋　本	8.6.10	嶋上遺跡群21に掲載
136.1	木　曽	8.6.10	遺構・遺物なし
100.48	宮　崎	8.6.10	柱穴・土器検出
	橋　本	8.6.24	史跡現状変更　遺構・遺物なし
57.95	木　曽	8.7.4	嶋上遺跡群21に掲載
50.34	鐘ヶ江	8.8.2	嶋上遺跡群21に掲載
97.46	鐘ヶ江	8.8.19	嶋上遺跡群21に掲載
66.92	橋　本	8.9.9	嶋上遺跡群21に掲載
1,598.8	橋　本	8.9.11～11.2	本書に(2)として掲載
65.02	橋　本	8.10.14	遺構・遺物なし
82.0	鐘ヶ江	8.10.28～9.3.31	遺構・遺物なし
365.8	鐘ヶ江	8.11.5～9.3.31	遺構・遺物なし
399.6	宮　崎	8.11.11～9.3.31	遺構・遺物なし
1,220.75	橋　本	8.11.25	遺構・遺物なし
	橋　本	8.11.20	史跡現状変更　遺構・遺物なし
69.5	木　曽	8.12.11	遺構・遺物なし
52.29	宮　崎	9.1.21	包含層確認
15.0	橋　本	9.3.10	史跡現状変更
	宮　崎	9.3.13	史跡現状変更　遺構・遺物なし
	宮　崎	9.3.13	史跡現状変更　包含層確認
302.6	高　橋	8.5.7～9.30	遺構・遺物なし
328.9	木　曽	8.5.7～9.30	須恵器検出・遺構なし
58.05	高　橋	8.10.2	嶋上遺跡群21に掲載
1,891.5	高　橋	8.11.5～9.3.31	遺構・遺物なし
1,200.0	高　橋	8.11.5～9.3.31	遺構・遺物なし
1,800.0	橋　本	8.11.5～12.20	遺構・遺物なし
93.44	橋　本	8.12.20	包含層確認
87.31	橋　本	9.1.21	嶋上遺跡群21に掲載
237.20	高　橋	9.1.23	包含層確認
163.96	高　橋	8.6.20	嶋上遺跡群21に掲載
899.21	高　橋	8.12.10～12.12	包含層確認
216.08	高　橋	8.12.20	包含層確認
71.8	木　曽	8.4.10	遺構・遺物なし
277.0	高　橋	8.5.26～12.4	本書に掲載
125.13	高　橋	8.7.1	嶋上遺跡群21に掲載
79.22	高　橋	8.12.24	外濠の埋土確認

No.	遺跡名（地区）	所　在　地	届　出　者	用　　途
45	高槻城跡	出丸町964-14	上野山　昇	個人住宅建設
46	天川遺跡	須賀町282-16	㈱裕　成	分譲住宅建設
47	〃	須賀町282-3・15	㈱裕　成	分譲住宅建設
48	〃	須賀町270-1他	安田末次郎	宅地造成
49	〃	須賀町270-1他	安田末次郎	宅地造成
50	〃	辻子一丁目4・5	丹家荘行	共同住宅建設
51	芝生遺跡	芝生町四丁目33-4他	ミリオンゴルフ	店舗建設
52	大塚西遺跡	大塚町四丁目510	㈱日南住宅	宅地造成
53	安満遺跡	安満新町376-6	中島常慶	個人住宅建設
54	〃	安満東の町地内	高槻市下水道部	下水道建設
55	〃	八丁畷町410	米澤操・郁子	野小屋建設
56	〃	八町畷町252-5他	高槻市教育委員会	管理用フェンス
57	安満北遺跡	安満中の町	吉田義雄	個人住宅建設
58	古曽部窯跡	別所本町233-8	川橋康子	個人住宅建設
59	梶原南遺跡	梶原四丁目638-1	中尾正秋	共同住宅建設
60	〃	梶原四丁目5-2	東ア建設㈱	倉庫建設
61	〃	梶原四丁目664-1他	中長信一他	駐車場建設
62	梶原寺跡	梶原一丁目1137	畑山神社	社務所改築
63	〃	梶原一丁目地内	高槻市水道部	水道管敷設
64	郡家本町遺跡	郡家本町1566	吉川雅子	駐車場建設
65	〃	郡家本町922	妙圓寺	本堂改築
66	郡家今城遺跡	氷室町一丁目781-25	伊藤　彰	個人住宅建設
67	〃	郡家新町60-7	西田政信	共同住宅建設
68	〃	郡家新町60-4	郡家新町自治会	公民館建設
69	〃	郡家新町地内	高槻市下水道部	下水道建設
70	〃	氷室町一丁目769-7他	谷本成司	個人住宅建設
71	今城塚古墳	郡家新町681-4他	高槻市教育委員会	整地
72	〃	郡家新町1-1他	高槻市教育委員会	整地
73	〃	氷室町一丁目723-1他	高槻市下水道部	下水道建設
74	岡本山古墳群	岡本町252-1	高槻市建設部	道路改良
75	宮田遺跡	宮田町三丁目地内	高槻市下水道部	下水道建設
76	氷室塚古墳	氷室町二丁目571-1	玉置陽一	個人住宅建設
77	〃	氷室町二丁目590-90一部	小松康二	個人住宅建設
78	〃	氷室町二丁目590-90一部	樋口善昭	個人住宅建設
79	新池遺跡	上土室一丁目514他	吉岡産業	共同住宅建設
80	〃	上土室一丁目514他	住友石炭鉱業㈱	共同住宅建設
81	塚原古墳群	阿武野一丁目701-1	高槻赤十字病院	病棟増設工事
82	〃	塚原三丁目288	岸田興揚㈱	ゴルフ練習場
83	津之江南遺跡	津之江北町231他	高槻市建設部	道路整備
84	富田遺跡	富田町四丁目2512-1他	梶谷温子	個人住宅建設
85	中城遺跡	北昭和台町313-7	坂本信一	個人住宅建設
86	〃	北昭和台町313-7	坂本明夫	個人住宅建設
87	萩谷銅鉱山跡	大字萩谷1099	高槻市	公園建設

表4　平成8年度調査一覧(2)

面積（㎡）	担　当	調 査 期 間	備　　考
114.84	宮　崎	9.1.27	嶋上遺跡群21に掲載
70.83	橋　本	8.11.1	遺構・遺物なし
141.66	橋　本	8.11.19	遺構・遺物なし
2,023.5			開発中止
2,023.5	橋　本	9.3.3～3.4	遺構・遺物なし
1,939.64	橋　本	9.3.13	遺構・遺物なし
405.08	橋　本	8.9.10	遺構・遺物なし
1,625.45	宮　崎	8.6.3	遺構・遺物なし
129.9	鐘ヶ江	8.9.19	嶋上遺跡群21に掲載
497.3	木　曽	8.11.11～9.3.31	遺構・遺物なし
15.6	鐘ヶ江	8.9.25	史跡現状変更
	橋　本	8.10.23	史跡現状変更
183.74	木　曽	9.1.23	包含層確認
364.56	高　橋	9.3.17～3.18	遺構なし
493.58	橋　本	8.4.17	遺構・遺物なし
487.6	橋　本	8.9.6	嶋上遺跡群21に掲載
1,803.9	宮　崎	8.9.26～10.30	嶋上遺跡群21に掲載
893.46	宮　崎	8.6.13～7.1	嶋上遺跡群21に掲載
216.0	橋　本	8.11.11～9.3.31	遺構・遺物なし
1,198.24	木　曽	8.7.22～7.26	嶋上遺跡群21に掲載
922.0	木　曽	9.1.16～1.17	土師器検出・遺構なし
101.02	高　橋	8.6.10	嶋上遺跡群21に掲載
176.96	木　曽	8.7.15～7.17	遺構・遺物なし
117.06	高　橋	8.7.16～7.19	嶋上遺跡群21に掲載
563.0	木　曽	8.11.11～9.3.31	遺構・遺物なし
208.74	木　曽	8.12.4	嶋上遺跡群21に掲載
755.0	橋　本	8.7.26	史跡現状変更
1,625.6	橋　本	8.7.26	史跡現状変更
193.0	鐘ヶ江	8.11.10～9.3.31	遺構・遺物なし
744.0	高　橋	8.10.24～9.3.31	遺構・遺物なし
389.4	橋　本	8.6.5～9.3.31	遺構・遺物なし
88.72	高　橋	8.8.28	嶋上遺跡群21に掲載
40.0	高　橋	8.12.16	遺構・遺物なし
37.08	高　橋	8.12.16	遺構・遺物なし
3,462.53			開発中止
3,462.53	鐘ヶ江	9.2.24～3.31	本書に掲載
103.77	高　橋	8.4.19	遺構・遺物なし
23,576.35	鐘ヶ江	9.2.18～2.21	遺構面確認
187.0	木　曽	8.12.16～9.3.31	遺構・遺物なし
426.37	高　橋	9.1.22	遺構・遺物なし
100.68	橋　本	8.7.12	嶋上遺跡群21に掲載
100.68	橋　本	8.9.17	嶋上遺跡群21に掲載
30,000.0	宮　崎	8.4.9～5.7	本書に掲載

図１　埋蔵文化財調査位置図



1 : 30000

2　調査の概要

嶋上郡衙跡の調査(1)

橋本久和
川村雪絵

嶋上郡衙跡は、これまでの調査で郡庁院や正倉などの建物跡をはじめとする多数の遺構が確認されている。今回の調査地は清福寺町917-5、917-6 にあたり、小字名は川西北浦である。史跡嶋上郡衙跡附寺跡の東側に隣接しており、遺跡範囲の東端に位置する。以前の調査では弥生時代中期の方形周溝墓や後期の竪穴住居などが検出されており、遺跡北東部の集落のありかたが注目されるところである。今回の調査で弥生時代から古墳時代にかけての土壙墓群、竪穴住居などを検出したので報告する。

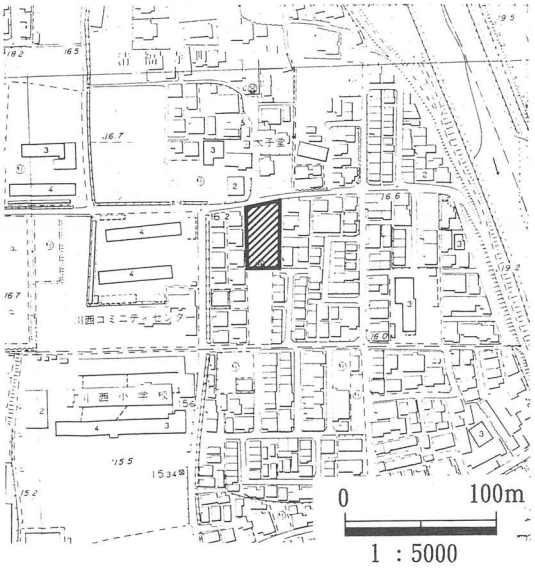


図1　調査位置図

遺構（図版第1～3、図2～4）

検出した遺構は弥生時代後半から古墳時代にかけての竪穴住居、土壙墓、土器棺墓、溝、ピットなどである。

土壙は規模の差はあるものの、合計13基検出した。この中には切り合いのあるものが多少含まれるため、本来は多くなると思われる。これらの土壙群は不定形で出土遺物も極めて少ないことから粘土採掘坑あるいは風倒木の可能性もあるが、すべて東西方向あるいは北東から南西方向にのびる形状であることや、土壙群の配置状況から判断して、土壙墓として扱うことにする。法量については表1に示した。長径が1.3～1.5m、2～2.4m、3m以上の大きく3つに分けられ、短径はいずれも0.5～1m、深さは0.1～0.5mをはかる。土壙墓群の形状は不定形であるが、楕円形や長方形を呈するものが多い。断面形はすべて浅いU字形を呈する。出土遺物は少量の弥生土器片のみであった。

土器棺墓は2基検出した。土器棺1は、竪穴住居の西側約1mのところで検出した。大形の土器であり、口縁部を欠いている。掘り方は検出することができなかったが、器体をやや東に向けた状態で出土した。

土器棺2は、住居跡の南方約5mのところで検出した。掘り方は直径0.5～0.6mの不整円形を呈し、深さは約0.2m、断面は浅いU字形をなす。土器棺は墓壙の中央に据え

図 2　38－B・F地区平面図・土層断面図

られており、器体を南に向けた状態であった。大きさは土器棺１より一回り大きく、口縁部を欠く。

竪穴住居は調査区の北東部で１棟検出した。平面形は4.8×４mのやや長方形を呈し、幅0.15〜0.2m、深さ0.06〜0.1mの周溝をめぐらす。住居内には３つのピットを検出したが、西辺から東へ約１mで南北方向に並ぶ２個が住居の主柱の一部になると思われる。それぞれ直径0.2〜0.3m、深さ0.1〜0.2mをはかり、柱間は2.2mである。住居の南東寄り、調査区東壁に接する部分では0.07〜0.08mのベッド状遺構と思われる高まりが認められた。また、住居北部の調査区壁に接する部分や南部の広範囲で埋土中に多量の炭が検出されたことから、火災によって焼失した住居である可能性も考えられる。この住居跡からは、弥生時代後期から古墳時代にかけての土器が出土した。

（単位：m）

番号	長径	短径	深さ
1	1.4	0.75	0.1
2	1.5	0.8	0.15
3	1.3	0.8	0.4
4	2.1	1.2	0.5
5	2.2	0.6	0.15
6	—	0.8	0.3
7	—	0.5	0.15
8	2.0	0.8	0.5
9	3.0	0.9	0.5
10	—	—	0.4
11	3.0	0.9	0.4
12	2.4	1.0	—
13	2.2	0.8	0.3

表１　土壙墓法量一覧

溝１は調査区の南端で検出した東西溝である。溝の東側は調査区外におよんでいる。切り合いがみられることから、同位置で再掘削していると考えられる。幅は１〜1.3m、深さ0.25〜0.3mをはかり、断面形はU字形を呈する。遺物は出土しなかった。

この他に72個のピットを検出した。これらピットの一部からは弥生時代後期の土器片が出土したが、大半が無遺物か、時期を特定することができない少量の土器片が出土するのみであった。

遺物（図版第４・５、図５・６）

今回の調査で出土した遺物は、合計するとコンテナ約10箱分におよぶ。大半が遺物包含層から出土した弥生土器片であり、一部須恵器片などもみられるがその中で復元できたものは少ない。

土器棺１（１）は口縁部を欠いている。最大腹径42.6cm、底部径８cm、現存高36cmをはかる。体部は球形を呈し、最大腹径は中位にある。外面はタタキ調整後ナデ、内面はハケ調整しており、外面の最大径付近には煤が付着している。色調は淡黄橙色である。

土器棺２（２）も土器棺１同様、口縁部を欠いており、最大腹径50cm、底部径7.5cm、現存高42.1cmをはかる。体部は球形であり、中位に最大径がある。体部外面はタテハケで調整した後、下半部のみヘラミガキを施しており、内面はハケ調整している。最大腹径付近に煤が付着している。色調は淡茶褐色である。これらはおおむね第Ⅴ様式後半か

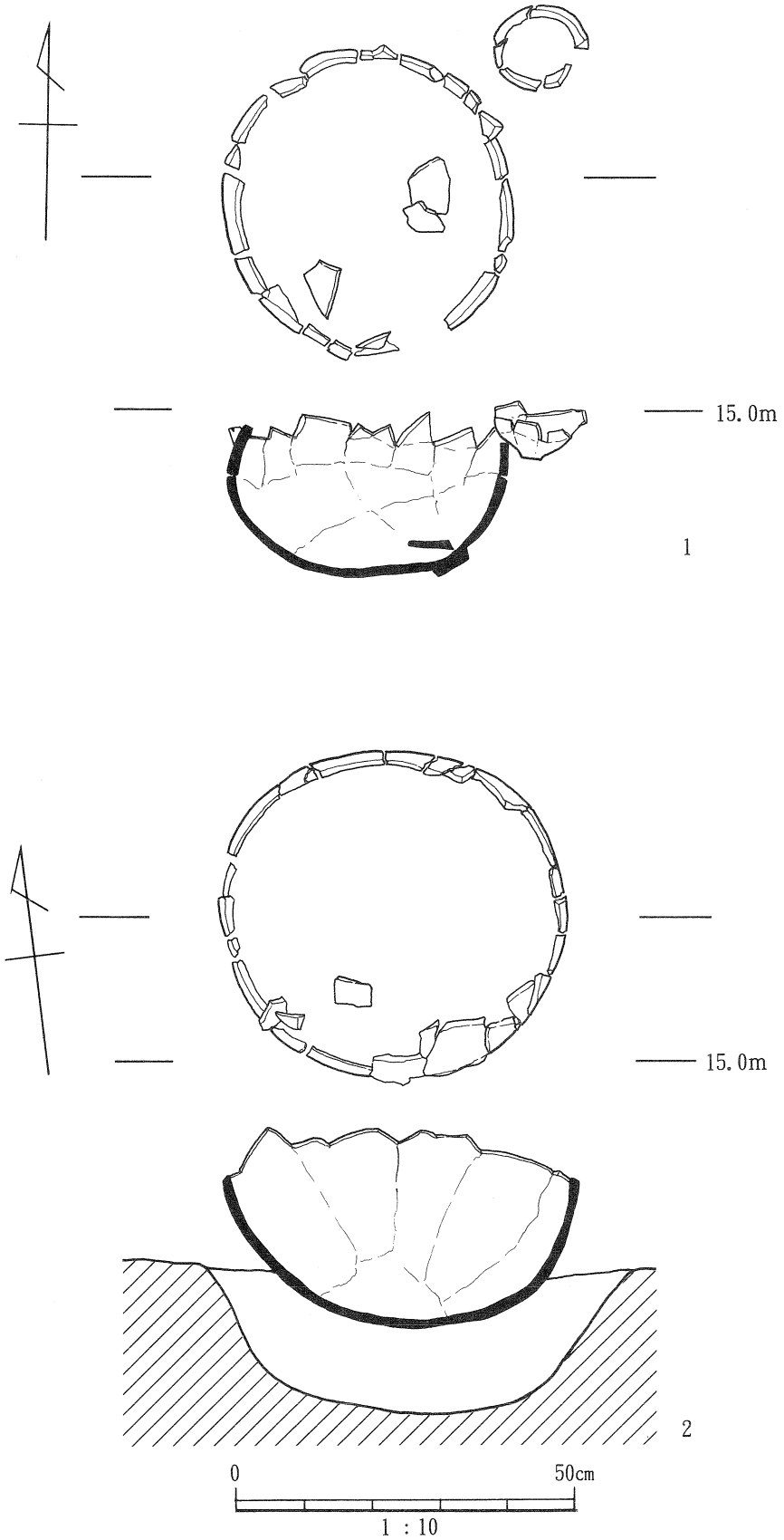


図3　土器棺1（1）・土器棺2（2）　平面図・立面図

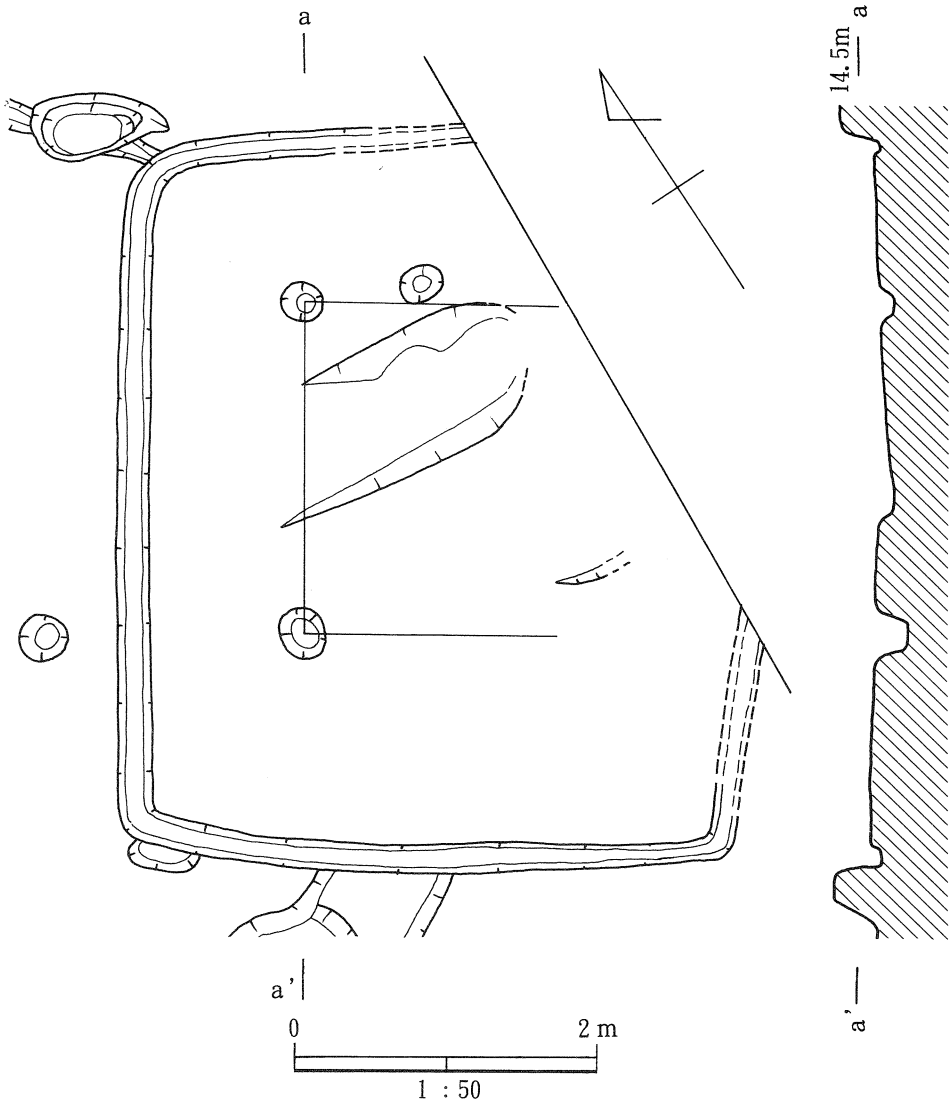


図4　竪穴住居1　平面図・断面図

ら庄内式のものである。

竪穴住居1からは土師器の小型丸底壷、甕などが出土している。小型丸底壷（1）は口径10cm、最大腹径8cm、器高7cmをはかる。やや内湾ぎみに開く口縁部をもち、体部は球形である。口縁部径が最大腹径を上回っている。体部外面は細かいヘラミガキ、内面はヘラケズリを施す。色調は黄橙色を呈する。甕の体部（2）は口縁部を欠いており、最大径13.2cm、底部径3.4cmをはかる。外面調整は不鮮明だが、底部付近でわずかにタタキ目が残る。内面はナデ調整を施す。色調は淡灰褐色を呈する。甕（3）は口径14.8cm、最大腹径18.4cm、器高19.5cmをはかり、最大径は体部の中位にある。球形の体部をもち、やや内湾ぎみに外反する口縁部を有する。口縁端部はわずかに肥厚している。底部は丸底である。体部外面は全体にタテハケを施した後、肩部のみに横方向のハケを施している。内面はヘラケズリを施す。色調は淡茶褐色を呈する。これらの出土遺物は甕

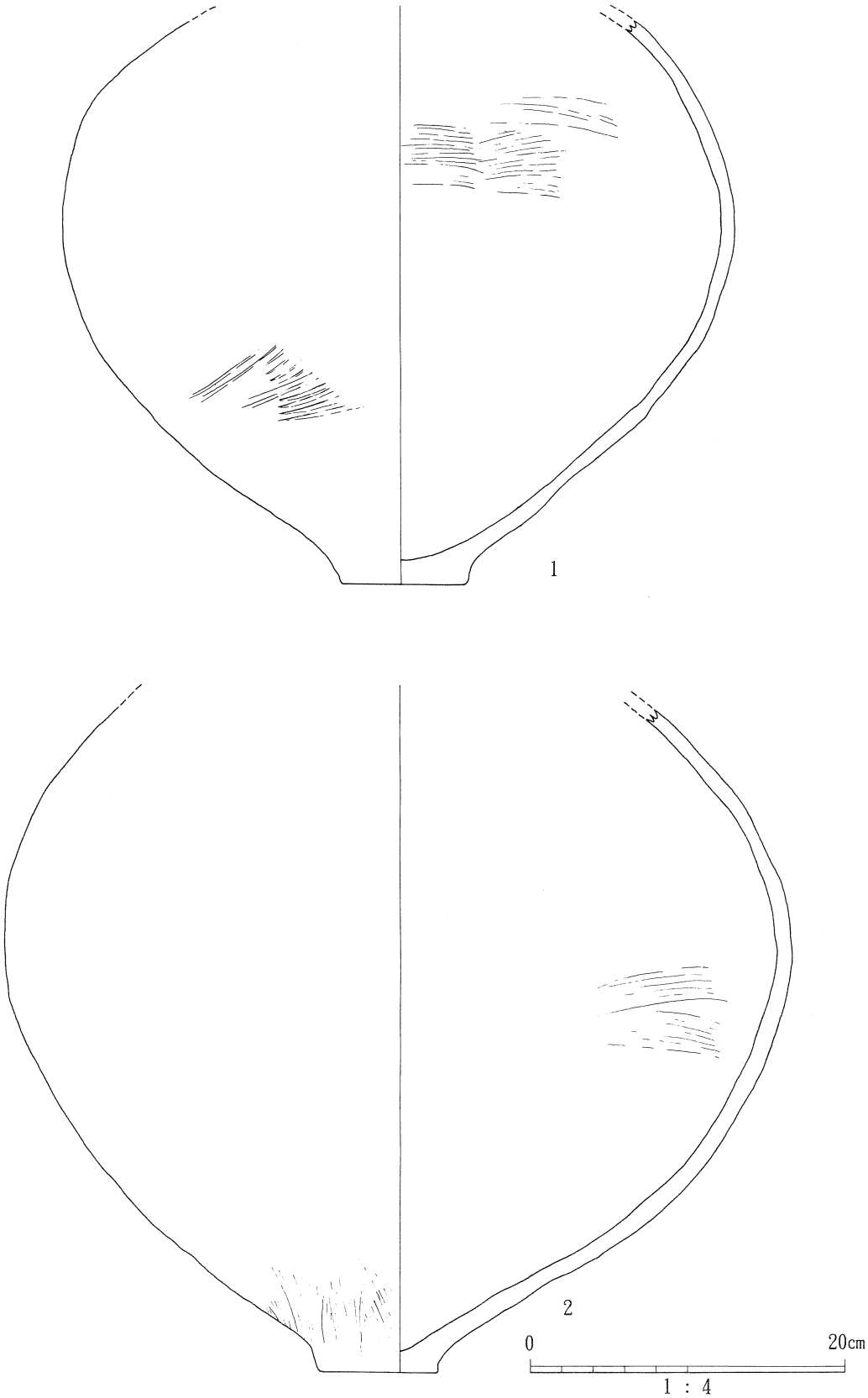


図5　土器棺1（1）・土器棺（2）　実測図

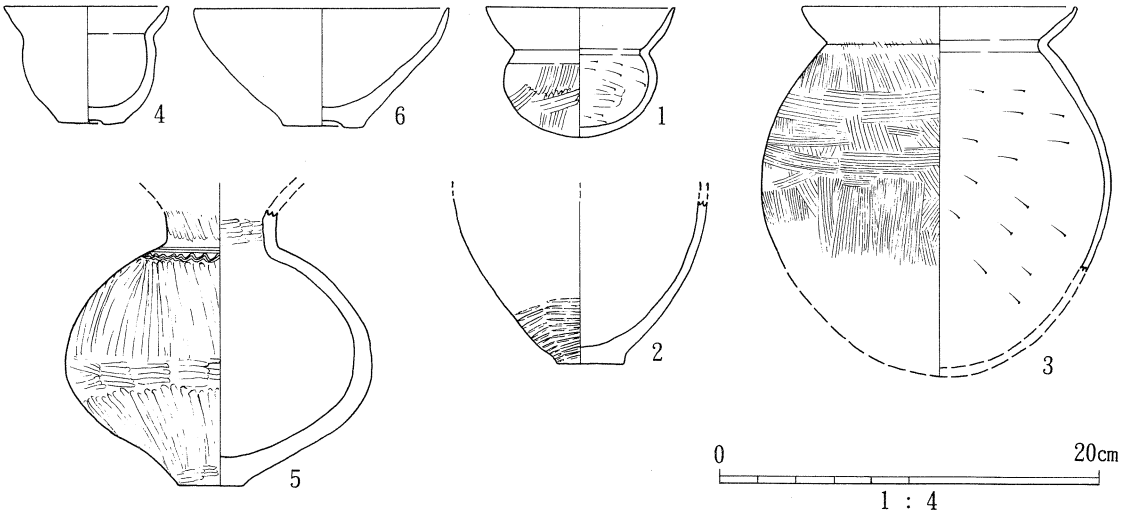


図6　竪穴住居1・包含層出土遺物実測図

の体部がV様式、その他が布留式古相に相当するものである。

その他に遺物包含層より出土したものとして、小型壷、壷の体部、鉢などがある。小型壷（4）は、口径8.6cm、器高6.3cm 底径3.5cmをはかる。体部内外面ともナデ調整を施す。色調は淡灰褐色である。壷の体部（5）は、頚部径6.2cm、最大腹径16.3cm、底部径3.3cm、現存高14.7cmをはかり、中位で膨らむ偏球形の体部にやや外反ぎみの口頚部をもつ。体部内外面ともにヘラミガキ調整によって仕上げている。頚部には直線文と波状文をそれぞれ3条ずつ施す。色調は淡灰褐色である。鉢（6）は口径13.4cm、底部径4.2cm、器高6.3cmをはかる。風化が著しく、調整は不明である。色調は黄橙色を呈する。これらは第V様式後半から庄内式にかけてのものである。

まとめ

今回の調査地では、嶋上郡衙に関わる遺構は検出できなかったが、弥生時代後期から古墳時代にかけての集落の面的な広がりを認めることができた。これまでの調査では南東部の調査地で弥生時代中期の方形周溝墓を検出しており、当該地一帯は墓域として認識されていた。弥生時代後期の集落は遺跡の北部において確認されていたものの、南西側に隣接する部分で竪穴住居を一棟検出しているのみであり、遺跡東端部におけるあらたな集落の可能性が指摘されていた（「38－F地区の調査」『嶋上郡衙跡発掘調査概要・3』）。

今回検出した竪穴住居からは布留式古相の土師器が出土しており、古墳時代に営まれた集落の一端を見いだすことができた。また、弥生時代後期の土壙墓や土器棺墓などは周辺の調査でも小規模ながら検出しており、居住域としてだけでなく、墓域としても機能していたことが分かる。同時期の集落の広がりを確認することが今後の調査で期待される。

嶋上郡衙跡の調査(2)

木曽　広

嶋上郡衙跡北方地域は、これまでの調査では弥生時代後期から中世にかけての遺構・遺物が数多く検出されている。

本調査区は、南平台丘陵の裾部にある郡家本町の集落の南側に広がる水田の一画で高槻市郡家本町314－1他にあたり、小字名を東馬場と称する。南側一帯は、史跡嶋上郡衙跡附寺跡の指定地になっている。

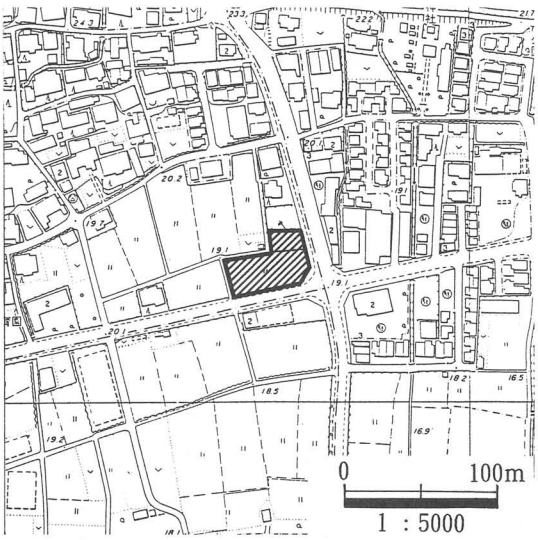


図1　調査位置図

西側の隣接地の調査では、掘立柱建物・倉庫跡・弥生時代末期の竪穴住居が検出されている（『昭和50年度高槻市文化財年報』）。平成6年度には府道をはさんだ南側調査区で、竪穴住居跡・掘立柱建物跡等の遺構を検出している（『平成6年度高槻市文化財年報』）。

遺構（図版第6～8、図2）

今回の調査でも竪穴住居・掘立柱建物・土壙墓・落ち込みなどの遺構を検出した。

住居1は一辺6mを測る方形竪穴住居で、壁面の高さ0.25m、周溝は幅0.1～0.3m、深さ0.08～0.14mを測る。カマド・主柱穴等は検出できなかったが床面から出土した小形壺などから古墳時代の住居跡と思われる。

掘立柱建物は2棟確認されており、建物1は桁行3間（柱間2.4m）、梁行2間（柱間1.8m）で、主軸方位はN－14°－Wである。建物2は桁行5間（柱間1.8m）以上、梁行3間（柱間1.8m）で、主軸はN－14°－Wである。両建物跡は方位をそろえるなど計画的に配置されていることから奈良時代の建物跡と思われる。

落ち込み2は調査区南端に位置し、さらに南へ広がる。平面は不整形で、長辺10.0m、短辺3.4m以上で、深さ0.22～0.6mを測る。

土壙墓1は楕円形で長径1.5m、短径1.4m、深さ0.16mを測り、出土遺物から12世紀頃と思われる。

遺物（図版第9、図3）

つぎに土壙墓1・落ち込み2・ピット・包含層のから出土した遺物を紹介する。

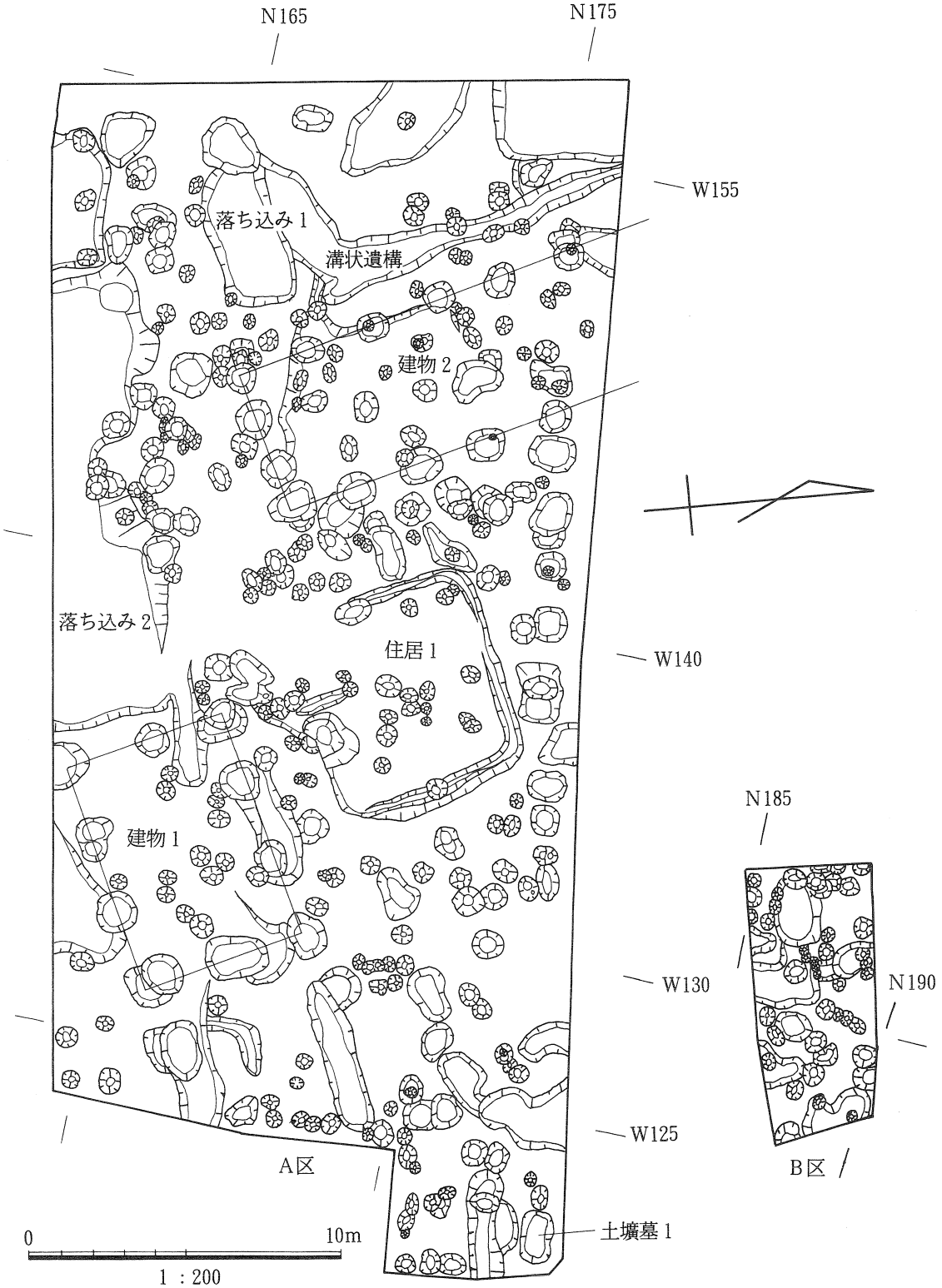


図 2　15－G・H地区　平面図

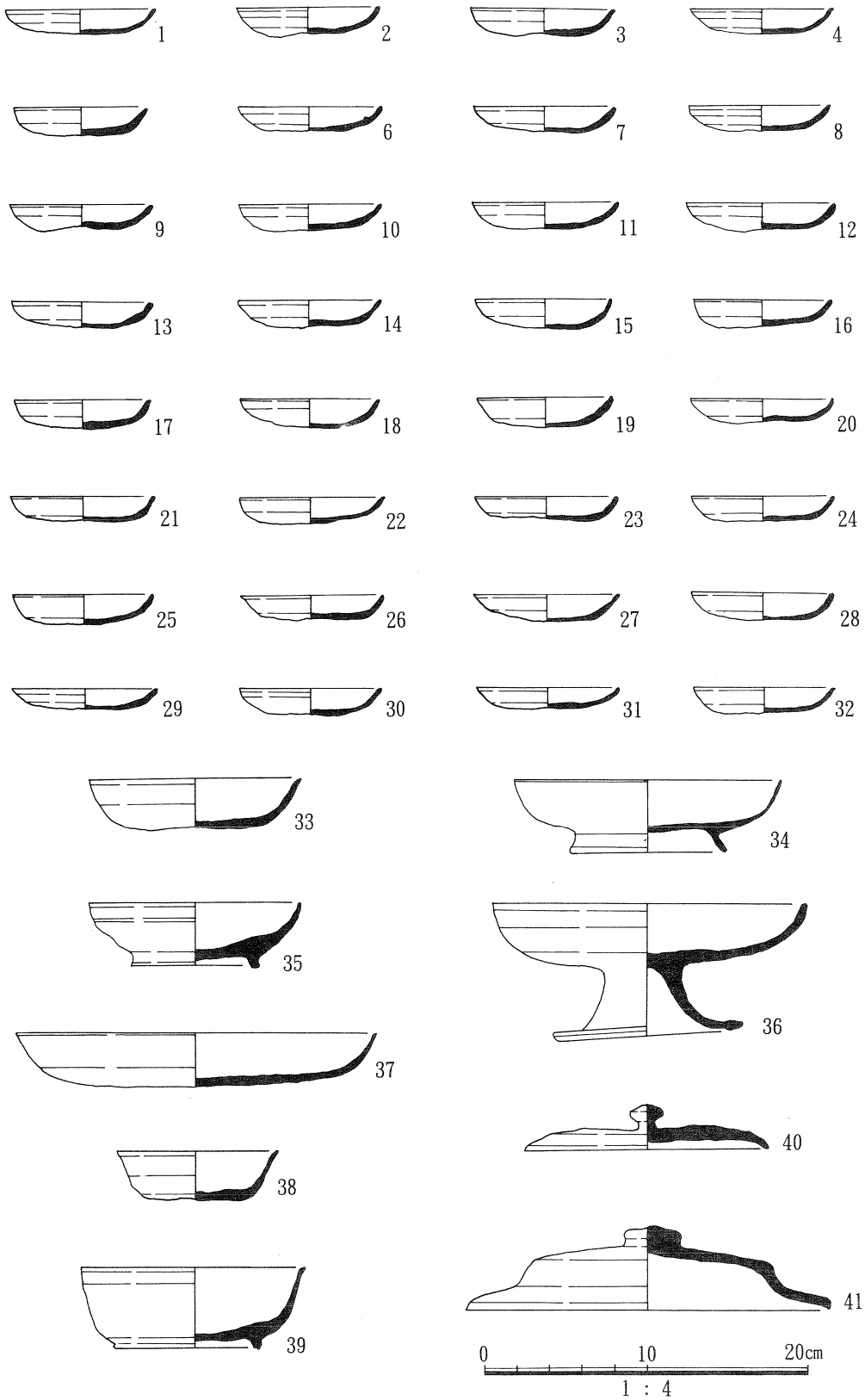


図3　遺物実測図　土壙墓1（1～32）　落ち込み2（33～36）　ピット（37）　包含層（38～41）

土壙墓１からは、土師器皿（１～32）が出土した。口径8.5～9.9cm、器高1.2～1.8cmで内外面とも指頭圧痕がめだつ。口縁端部を薄く引き伸ばし、横ナデし、丸い端面を形づくっているＡタイプとされるものである。油煤痕はなく、祭祀に使用されたものか破棄されたものか不明である。図３にまとめたように12世紀前後の遺物と思われる。他には埋土から細片であるが、白磁の破片２点が出土している。

落ち込み２からは、土師器・須恵器（33～36）が出土した。33は土師器杯で口径13.3cm、器高2.9cmを測り、平坦な底部と外傾気味に立ち上がる口縁部をもち内外面はナデ調整している。34は高台付の土師器杯で口径16.3cm、器高4.5cmを測り、体部は浅くラッパ状に開いており器面をナデ調整し高台底部も粘土を貼りつけナデ調整している。35は高台付の須恵器杯で口径13.2cm、器高3.9cmを測り、内外面とも回転ナデ調整し、高台は貼りつけ八の字状にひらき器面でナデ調整している。36は須恵器の高杯で杯部口径は19.5cm、底径は11.8cm、器高8.9cmを測り、杯部内面はナデ調整し、底部はヘラ削り調整で、脚基部は張りつけナデ調整で脚端部もナデ調整している。

ピットの埋土からは土師器皿（37）が出土した。口径22.6cm、器高3.3cm を測り、風化が激しくて内外面のナデ調整がわずかに観察されるにすぎない。底部からなめらかに短く立ち上がる口縁部をもつものである。

38～41は包含層から出土した須恵器である。38は口径12.0cm、器高3.9cm を測る杯で、平坦な底部にやや外反する口縁をもつもので、口縁端部は丸くおさめる。内外面ヘラミガキ調整している。39は口径16.5cm、器高5.3cm を測る杯で、高台は外方へ開く形態で、内外面はナデ調整している。40は直径15.0cm、器高3.8cmを測る蓋で、外面は口縁部を垂下に仕上げ、頂部には宝珠形のつまみを付け内面はナデ調整し、外面全体に自然釉が付着している。41は直径は22.0cm、器高5.1cmを測る蓋で、笠高で天井部は平坦で頂部に宝珠形のつまみを付けかえりを内側に仕上げている。

当該地周辺部の調査では７～８世紀にかけての掘立柱建物がしばしば検出されており、郡衙中心とは異なる区画をもった居住地域が想定されている。今回の調査では竪穴住居・掘立柱建物・落ち込み・土壙墓・溝状遺構・ピット等の遺構が検出されている。また、すでに報告ずみであるが古墳時代の土器・須恵器、奈良時代の土師器・須恵器・平城宮6225形式の系統を引く複弁蓮華紋軒丸瓦・平瓦片、使途不明であるが筒形土製品・寺院等の基壇に使用する石材の一部と思われる凝灰岩製板石などの遺物を検出した。

このように今回の調査では嶋上郡衙の北方に位置する建物群の一端について新たな知見を得ることができた。

高槻城三ノ丸跡の調査

橋本久和
高橋公一

高槻城は明治７年に建造物は取り壊され、堀も埋められて今ではその名残を残すものはほとんど見られなくなっている。しかし、近年の発掘調査により、次第に城の様相が明らかになってきた。特に三ノ丸南郭においては導水施設が検出されるなど大きな成果を上げている。

今回、三ノ丸に位置する高槻警察署の付属舎等の建設工事に先立って、発掘調査を実施した。

調査地は高槻市野見町1492－１で、高槻城三ノ丸北郭の北西隅に位置している。17世紀後半の高槻城絵図には乾櫓と武家屋敷が描かれている。

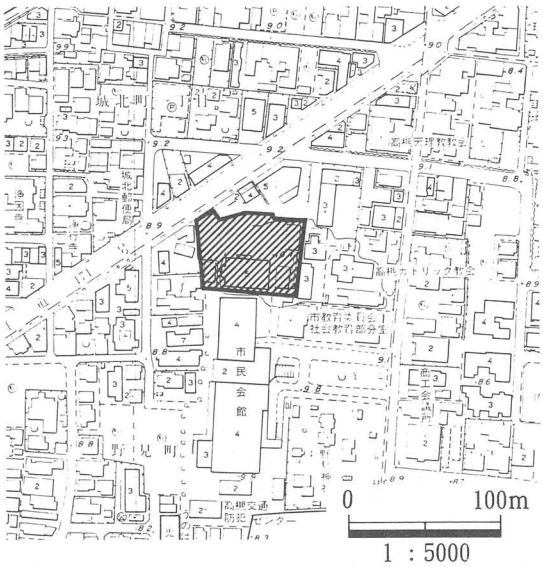


図１　調査位置図

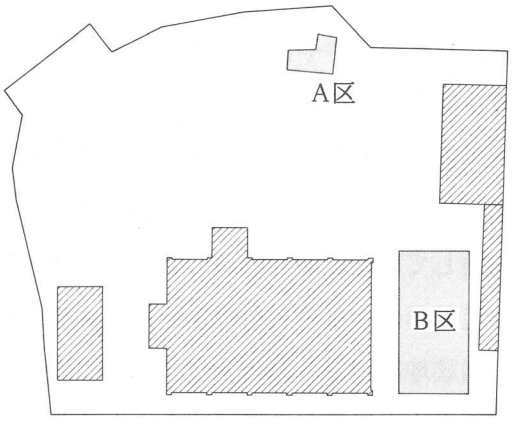


図２　調査区位置図（斜線は既存建物）

調査は、敷地の北側のプレハブ倉庫建設予定地（Ａ区）と付属舎建設予定地（Ｂ区）の２つの調査区を設定して実施した。

Ａ区の調査（図版第10、図３）

アスファルトと警察署建設に際して敷かれた灰色バラス・褐色バラスを除去すると、すぐに褐色砂礫の地山が検出され、東西方向に掘削された外堀の内側肩部が確認できた。

堀は約45°の急角度に掘削され、深さ約2.1mを測る。堆積土の状態から大きく上層・下層に分けることができる。上層は淡褐色土、淡黄褐色土、黄色土、淡灰褐色土などがレンズ状に約1.5m堆積していた。これらは色調が類似し、いずれも砂質土である。なかでも淡灰褐色土は北側で約1.3mと最も厚く堆積し、短期間に埋められたものとみられる。下層は泥炭化した粘土を中心に約0.6mを測り、青色粘土（0.2m）、黄緑色砂質土（0.2m）、青灰色粘土（0.2m）が底部に堆積していた。堀の斜面には肩部から内

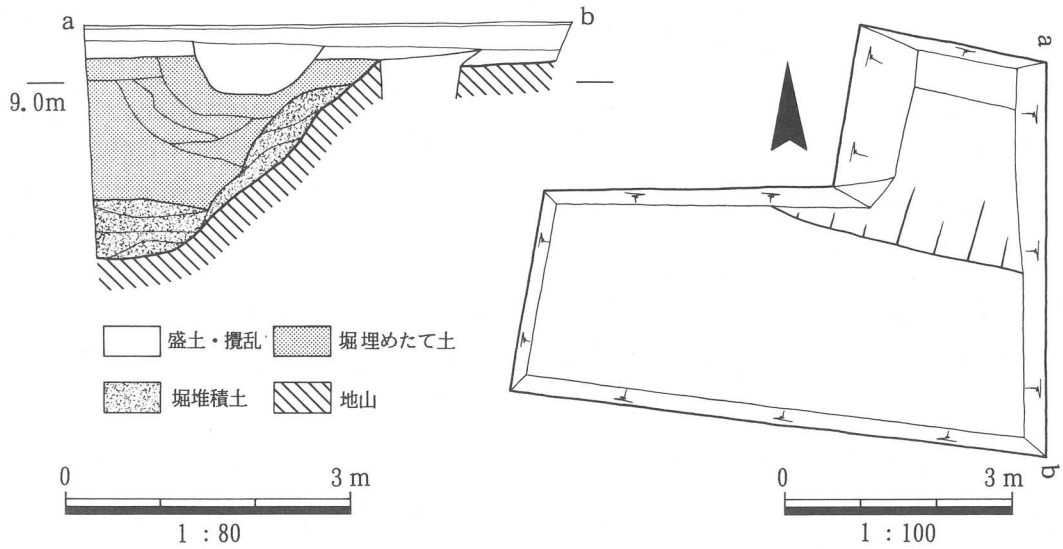


図3　A区土層図・平面図

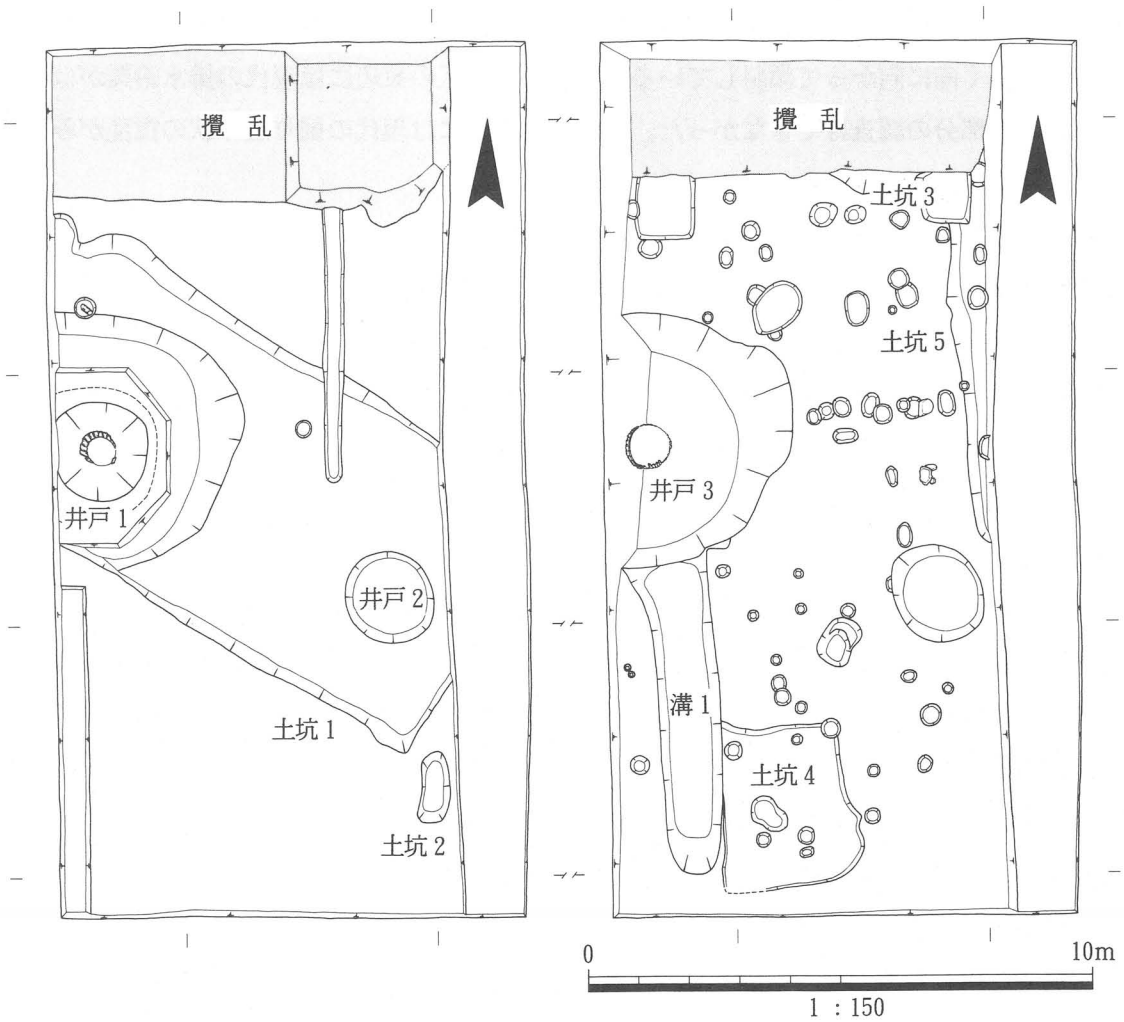


図4　B区上層遺構（左）・下層遺構平面図

側にむけて、黄灰色土、黄色砂質土、灰色粘土がブロック状に堆積していた。黄灰色土と黄色砂質土は上層と類似し、灰色粘土は下層に類似している。

遺物は褐色バラスなどの除去作業中に近世陶器の小破片が出土しただけで、外堀の堆積土からはまったく出土しなかった。また、外堀の南側についても遺構の精査を実施したが、なにも確認できなかった。

A区の調査では、三ノ丸跡北西部の外堀肩部を確認することができ、下層の堆積土は高槻城廃城以前とみられる。上層は廃城時に一気に埋め立てたことを示すものと考えられるが、今回の調査では出土遺物が無く時期を確定することはできなかった。

B区の調査（図版第11、図４）

付属舎建設予定地に設定したB区では、上層・下層の2つの遺構面が認められた。上層遺構は地表下約1.0m（標高8.5m）で検出し、明治から江戸時代にかけての遺構とみられる。下層遺構は地表下約1.5m（標高8.0m）で確認し、一部に中世にさかのぼる土坑がみられた他は、おおむね江戸時代の遺構とみられる。各遺構面はほぼ平坦であるが、やや北が高く南に向かって傾斜している。なお、調査区の東辺には現代の排水暗渠がはしり、この部分の調査はできなかった。また、北端部には現代の掘り込み状の撹乱がみられ、遺構は確認できなかった。

以下に主な遺構について記述する。

［上層遺構］

上層で検出した遺構は、土坑、井戸等である。

土坑１は、調査区中央で検出した大型の土坑である。長辺８m以上、短辺5.8mの方形で、西側にさらに延びるとみられる。深さは0.2mと浅い。

土坑２は、土坑１の南で検出した。長径1.4m、短径0.6mの不正円形で、深さは0.5mである。

井戸１は土坑１の埋土上面で検出した。一部が調査区外であるが、掘形は直径2.5mの円形に復元できる。直径0.5mの桶状の井戸枠は最下段のみ出土した。検出面から底部までの深さは1.0mである。井戸は廃絶後にゴミ坑として利用されており、明治時代の陶磁器類が多数出土した。

井戸２は土坑１の底部で検出した。掘形は直径1.9mの円形で、深さは検出面から1.1mを測る。井戸枠は廃絶時に抜き取られたため不明である。

［下層遺構］

下層で検出した遺構は、土坑、井戸、溝、小穴等である。

土坑３は、調査区北端で検出したが、現代の撹乱によって大半が削平され、詳細は不

明である。後述の土坑５を切り込んでいる。

土坑４は調査区南半部に位置する。西辺を溝１によって切られているが、長辺3.2m、短辺2.8mの隅丸方形に復元できる。深さは0.1～0.15mと浅い。

土坑５は調査区北東部で、西側肩部のみ検出し大半は調査区外である。落ち込み状の土坑とみられるが、溝の可能性もある。中世末期にさかのぼる土器が出土し、今回の調査でもっとも古い遺構とみられる。

井戸３は、井戸１の下層で検出した。上層遺構でも、土坑１の底面で井戸３の掘形を一部検出し、土坑として認識していたが、掘り下げて精査したところ井戸と判明した。掘形は、西半部が調査区外であるが、直径5.0mの不正円形に復元できる。井戸枠は、縦板・円形で内法の直径は0.8m、１段の長さ約1.0m、縦板材一枚の幅は0.1mである。枠３段分約2.2mを確認したが、掘形を含めた井戸底部はさらに深くなると予想され、危険防止のため底部の確認は断念した。

溝１は、土坑４西辺を切り込む溝である。幅は1.1m、底部は南端から北に向かってスロープ状に下降しており、もっとも深い北端では深さ1.5mを測る。

その他、小穴を多数検出したが、建物等のまとまりとして捉えることはできなかった。

まとめ

今回の調査でＡ区においては、外堀肩部を検出し、高槻城の縄張り復元において、良好な資料を得ることができた。

Ｂ区では、上・下層の遺構面から土坑、井戸などの遺構を検出し、江戸時代を通じての高槻城における土地利用の一端が明らかとなった。個々の遺構の性格については今後の検討課題であるが、重層的な遺構を層位や遺構の切り合いによって、時系列で把握する手がかりを得た点は意義深いといえよう。また中世の土坑の検出により、周辺には近代から近世はもとより、当該期の遺構が遺存している可能性が高まった。今後の周辺の調査が期待される。

新池遺跡の調査

鐘ヶ江　一　朗

新池遺跡は、阿武山の南東部にある土室地域の東寄りにあって、小規模な段丘と谷底平野にひろがる日本最古・最大級のハニワ生産遺跡である。大小約500基の古墳を数える三島古墳群のほぼ中心に位置し、太田茶臼山古墳や今城塚古墳とは約１㎞隔たっている。

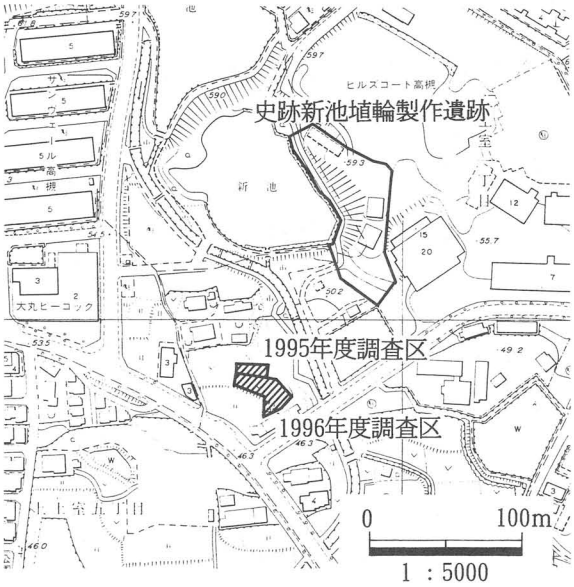


図１　調査位置図

1988～90年に行った発掘調査では、450年ごろから550年ごろにかけての埴輪窯18基と埴輪工房３棟、竪穴住居14棟などが発見された。また、真の継体天皇陵である今城塚古墳に埴輪を供給したことが確認され1991年には窯と工房が史跡今城塚古墳附新池埴輪製作遺跡として国の史跡指定を受け、現在はハニワ工場公園として整備、公開している。

今回、1995年度及び1996年度に実施した史跡指定地西方の共同住宅建設に伴う調査をあわせて報告する。調査地は、指定地とは土室川を隔てた西南方約60mの丘陵上に位置し、遺構検出面の標高は約49～48mをはかる。

調査の結果（図版第12～15、図２）

古墳時代後期（６世紀前半）の竪穴式埴輪工房・土器溜り・土坑・溝、奈良時代前期（８世紀前半）の総柱掘立柱建物などを検出した。

＜古墳時代の遺構＞

工　房　調査区東部から５棟検出した。一部が重複しており３時期想定できる。

工房１は東西6.0m×南北5.7m、床面積は34.2㎡ある。主柱穴は４個（柱間2.8m）あり、北辺中央にカマド跡、南辺東側に土坑２基を検出した。南西隅と南側中央外縁に上下を打ち欠いた円筒埴輪が立っていたほか、埋土中から埴輪片や須恵器蓋杯、土師器椀・甕・把手付椀などが出土した。

工房２は工房１のすぐ南側で検出した。東西5.6mあり、南側は調査区外につづく。柱間2.8mの主柱穴２個のほか、北辺中央にカマド跡、北東隅に土坑１基を検出した。

図2　新池遺跡　遺構概略図

工房３は、工房１・２より古く、東西4.7m×南北6.3m、床面積29.6㎡である。主柱穴は４個（柱間2.8m）あり、南東隅に土坑１基を検出した。土坑内から、土師器片のほか粘土塊が出土している。

工房４は北東側の一角を検出した。北辺にカマド跡があり、その南側の0.5m×0.3mの範囲に粘土がひろがっていた。埋土から埴輪片や土師器高杯・甕などが出土している。

工房５は工房１の北側で検出した（1995年度調査区）。一辺7.2mあり、床面積は52.8㎡で今回報告するなかではもっとも大きい。主柱穴は４個（柱間3.4～3.8m）あり，北辺東寄りにカマド跡のほか土坑３基を検出した。このうち北側の小土坑では粘土塊が出土している。埋土中から埴輪片・土師器片などを検出している。

また工房１の北側、土坑４基が集中しているところで柱間約2.8～3.2mの４柱穴を検出しており、工房の可能性がある。

土器溜り　調査区西側及び北側で検出した。

西側の土器溜り１は、東西約６m、南北約５mの不整形で、深さは0.2～0.3mある。後述の溝３が埋まった後に形成されている。盾・人物・朝顔などの埴輪片のほか、高杯・鍋・甕・甑などが多量に投棄されていた。須恵器はごく少量しかみられなかった。

北側の土器溜り２は、工房５を切って形成されている。東西1.8m、南北2.6m以上、深さ0.2mで北側は調査区外にのびる。土師器を主体に少量の埴輪片を検出している。

土　坑　工房１の北側で４基検出した。いずれも平面楕円形で、規模は0.8m×1m程度、深さ0.2mをはかる。

溝　調査区中央部から西部にかけて、南北方向の溝を３条検出した。なかでも西端の溝３は、断面逆台形で幅0.7m、深さ0.4～0.6mある。埋土中から埴輪片が出土している。

＜奈良時代の遺構＞

調査区中央部で、総柱の掘立柱建物４棟、側柱建物４棟を検出した。いずれも柱は抜き取られてのこっていない。

総柱建物は２間×２間と２間×３間の規模のものが２棟ずつあり、高床の倉庫群とみられる。また建物１と２は一部重複しており、建物１の方が古いと考えられる。建物３・４の一部の柱穴では、柱の抜き取り跡に土器片を投入しているのが検出された。

名　称	規模（東西×南北、柱間）
建物１	２間(1.6m) × ２間(1.5m)
建物２	２間(2.3m) × ２間(1.8m)
建物３	２間(1.9m) × ３間(1.4m)
建物４	３間(1.6m) × ２間(2.4m)
建物５	２間(1.7m) × ３間(1.6m)

調査の成果

今回検出した埴輪工房群は、出土土器から6世紀前半のものとみられる。この時期の工房としては、近畿地方では初見である。埴輪片や粘土塊の出土状況は、すでにあきらかな5世紀代の工房と似ているが、カマドを持ち食器類も出土していることから、住居を兼ねた工房と考えられる点が大きく違う。また工房内の作業ピットとみられる土坑の数も1～3基と少ない。

本遺跡での埴輪生産は、5世紀には窯に近接して専用の工房を設け、約100m離れた同じ丘陵上に住居をかまえて行われていた。それが6世紀になると、窯は前代の窯跡を避けて北方へ営まれる一方、谷をはさんだ西側丘陵上を拓いて工房兼住居が設けられるようになったと推定される。

これまで新池遺跡では、真実の継体天皇陵である今城塚古墳の時期の工房が不明であった。今回検出した工房群は、まさにこの時期に相当するもので、大王陵の埴輪生産システムの解明に向けての糸口を得たといえる。

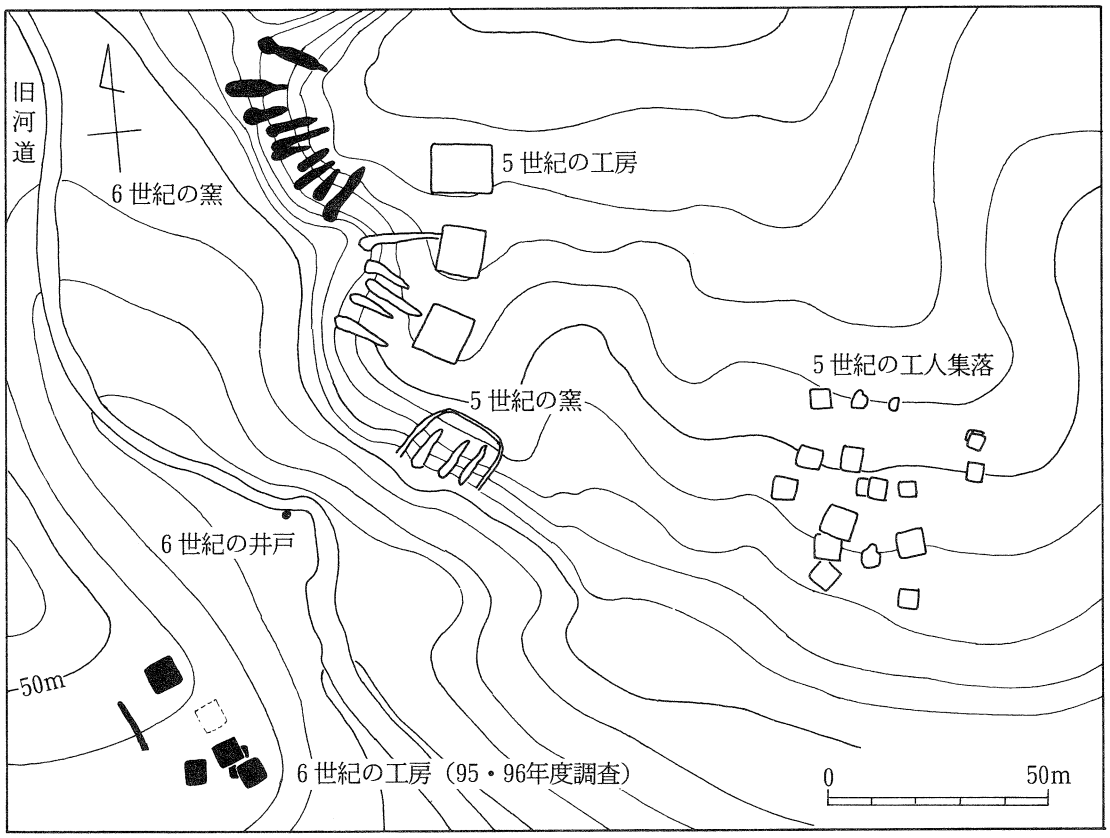


図3　新池遺跡の埴輪生産遺構

萩谷銅鉱山跡の調査

宮　崎　康　雄

萩谷銅鉱山跡は高槻市北西部、大字萩谷1099番地に所在し、小字名は岩坂と称する。調査地は標高160～165m前後の南に開く谷に位置する。現状は山林で、西側斜面に露頭した岩盤には２カ所の坑口が開いていた。

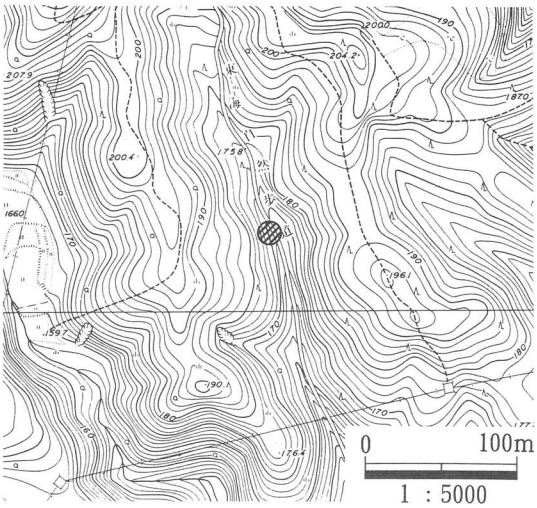


図１　調査位置図

遺構・遺物（図版第16・17、図２・３）

検出した遺構は竪坑と横穴、通路および竪坑の下端から派生する２本の坑道である。

竪坑は平面形が東西1.2m、南北1.7mの方形をなし、深さは横穴の床面から5.3m、通路から3.2mをはかる。竪坑の底からは坑道１・２が尾根に沿って南北にのびる。壁面には軸木を受けるための高さ0.2m、幅0.2m、奥行き0.1mの孔が穿たれ、開口部には坑木が原位置のまま遺存していた。上端部では高さ最大3.0m、最大幅1.5mのドーム状となり、奥にはさらに横穴が続く。これは竪坑に直交するように山側へ掘削したもので、岩盤の風化が進行し、奥部が崩落していたために開口部より3.2mまでの奥行きを確認したにとどまる。断面形は方形を呈し、幅0.9m、高さ0.7mをはかる。底面は水平となり、通路との比高は約２mである。

通路は坑口と東側の谷とを結ぶ搬出路となるもので、谷と竪坑の坑口間の岩盤を切り込んでいた。ほぼ水平な路面上では谷側に鉱石が散在していた。全長４m以上、幅約1.5mをはかる。谷側では路面から遊離して鉄製のタガネが出土した。断面は方形を呈し、刃先は欠失する。現存長は9.6cmである。

坑道１は竪坑の底から北側へ掘り進んでいた。断面形は幅1.0～1.4m、高さ1.2～1.4mの方形をなし、壁面全体に煤が付着する。竪坑の底から約１m北で約２m掘り下げた後、斜坑となってさらに北側へ下降していく。東壁は杭や矢板での補強した状況が良好に遺存していた。坑道の長さは7.8mまで確認したものの、激しい湧水のために全容をあきらかにはし得なかった。

坑道２は竪坑の底から東へ１m掘削したのち南側へ屈曲して直線状にのびるもので、長さは6.3m以上をはかる。床面はほぼ水平となり、壁面全体に煤が付着していた。南

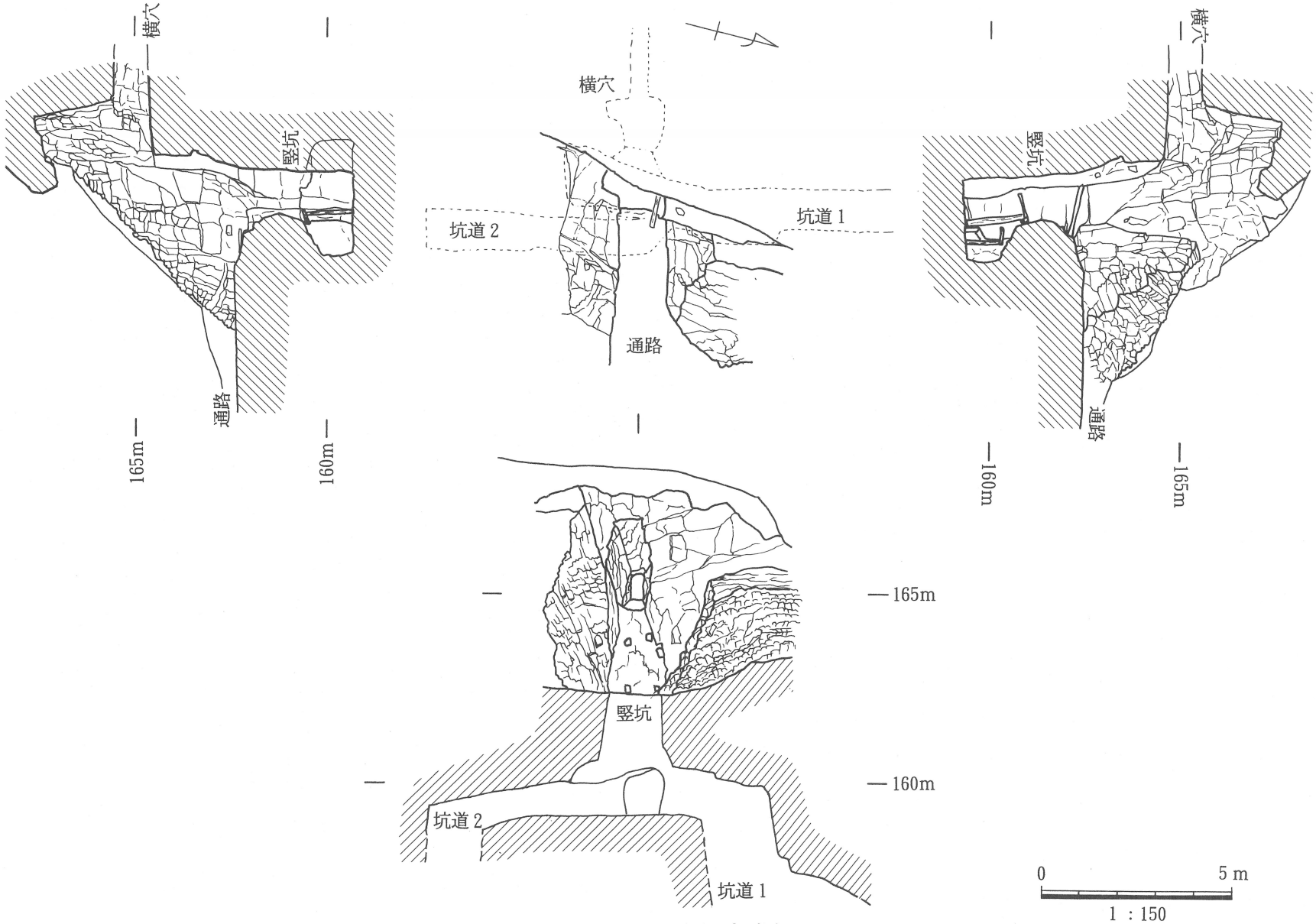


図 2　坑道跡　平面図・立面図

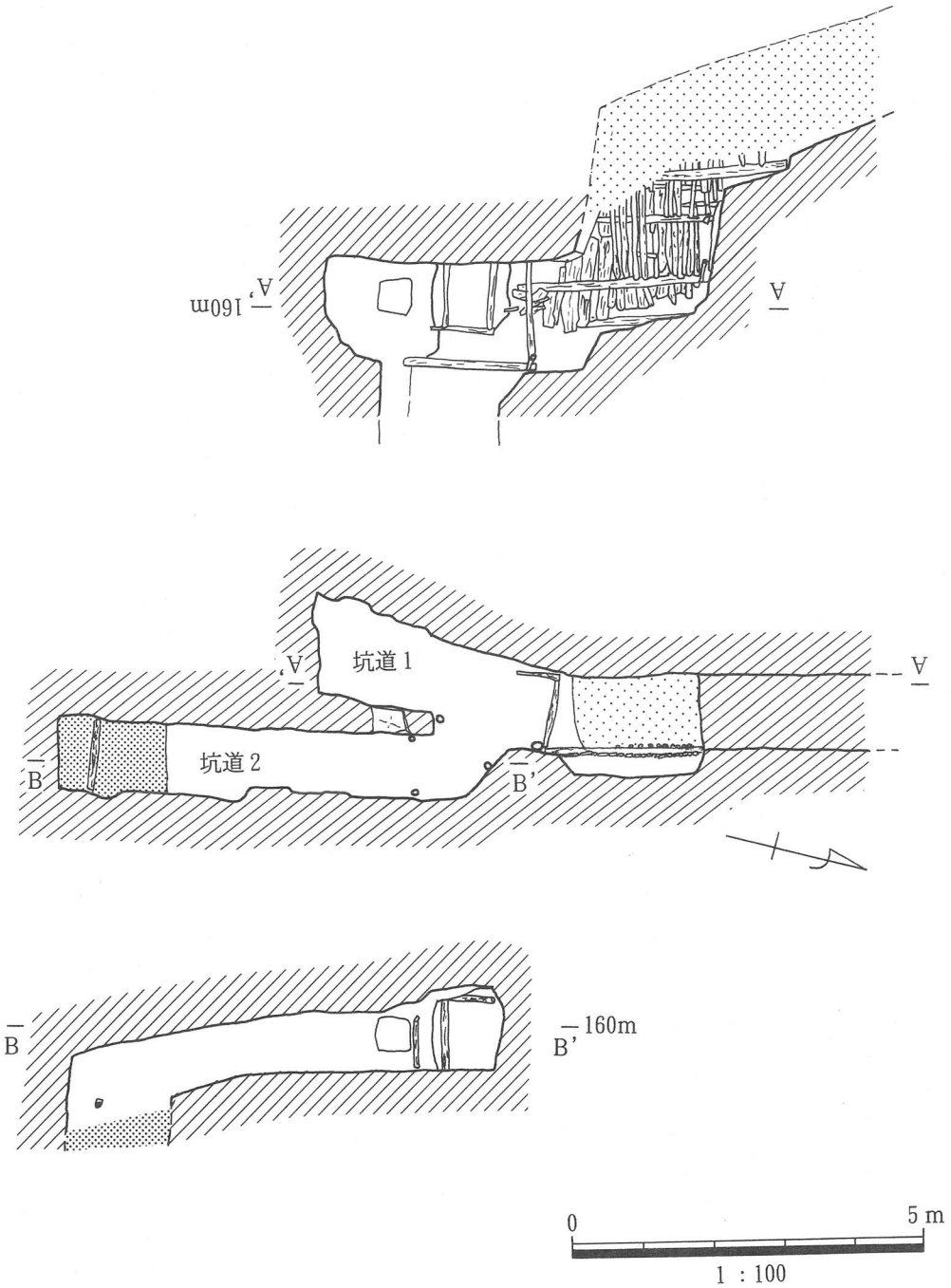


図3　坑道1・2　平面図・立面図

端では下方に掘削していたが、湧水と流入土のために深さは確認できなかった。断面の形状は方形をなし、幅0.9〜1.0m、高さ0.8〜1.2mをはかる。

まとめ

萩谷銅鉱山跡は、岩盤の摂理が発達し、風化が進行していた割には遺存状態は良好であった。

検出した遺構から、岩盤を切り崩して作り出した通路や竪坑の上端にドーム状の掘り込みや横穴を掘削することによって採掘作業用のスペースを確保していた。この空間を利用して滑車を固定するための矢倉を組み上げて坑道より鉱石を運びあげたと推定される。とくに横穴は坑道１・２と比較して小規模であることや、竪坑上部から山側へ水平に掘り込むことから、坑道よりも鉱石の搬出作業に関わる遺構とみるのが妥当である。

竪坑下端からのびる坑道は落盤等を防止するために坑木で補強をおこないながら、掘り進んでいた。坑道の壁面には銅などの鉱物は認められなかったものの、通路には黄褐色や茶褐色を呈した酸化状態の小礫が散在していた。これらについては化学分析を実施することによって採掘した鉱物を特定できるものと思われる。また、坑道１・２が竪坑に対して南北に掘削されている状況からすれば、鉱脈は尾根に沿っていたと考えられる。

遺物は１点のタガネのみであり、操業時期を判断できるものはなかった。ただ、明治10年頃に萩谷地区内で銅が採掘された記録があり、今回調査した鉱山跡もこの時期に該当するとみられる。操業期間は不明ながら、坑道の壁面にみられるランプとみられる煤が厚く付着することからすれば、採掘は一定期間継続していたと推定できよう。

萩谷銅鉱山跡は近代の鉱山技術や殖産興業政策のなかで近代工業化が進行する当時の社会状況を知るうえでも貴重な資料であり、今回の考古学的な調査によりその実体を解明する手がかりを得た。今後周辺地域での関連遺構の調査が期される。

Ⅱ　文化財保護啓発事業

1．写生とハニワづくり大会

日　　時　　平成8年6月8日・9日

内　　容　　史跡新池ハニワ工場公園において、多くの方々が文化財に親しみ、ハニワ工場公園をはじめとする文化財のよりいっそうの普及・啓発をはかることを目的として開催した。

大会当日は、一般市民や児童を対象に写生とハニワづくりを体験してもらったが、古墳時代のハニワ職人や武人に扮した埋蔵文化財調査センター職員が復元工房や公園内でモデルと製作の指導にあたった。また、作品は審査をおこない「ヲホドの大王賞」など各賞の入賞作品を選んだのち、応募作品のすべてをジャスコシティ高槻、ハニワ工場館、小さな展覧会会場で展示した。

協　　賛　　ジャスコシティ高槻

参 加 者　　160人

作品展示　　ジャスコシティ高槻　　7月20日～7月30日

ハニワ工場館　　8月1日～8月30日

小さな展覧会会場　　9月6日～9月12日

2．小さな展覧会

日　　時　　平成8年9月6日～12日

内　　容　　「平地のムラ・丘のムラ－弥生・2000年前のくらし」をテーマに、史跡安満遺跡をはじめとする市内の弥生時代遺跡から出土した遺構・遺物を、①高槻の弥生ムラ、②すまいと装い、③くらしと道具、④墓とまつり、⑤鉄の普及と戦いの5コーナーにわけて展示し、当時のくらしぶりを再現・紹介した。また、あわせて調査速報コーナーを設けて、最近の注目される出土資料として中城遺跡の備蓄銭を展示した。

見 学 者　　2,733人

講 演 会　　弥生時代のくらしと環境

日　　時　　平成8年9月8日

講　　師　　高橋　学（立命館大学助教授）

参 加 者　　60人

3．市立埋蔵文化財調査センター見学者数

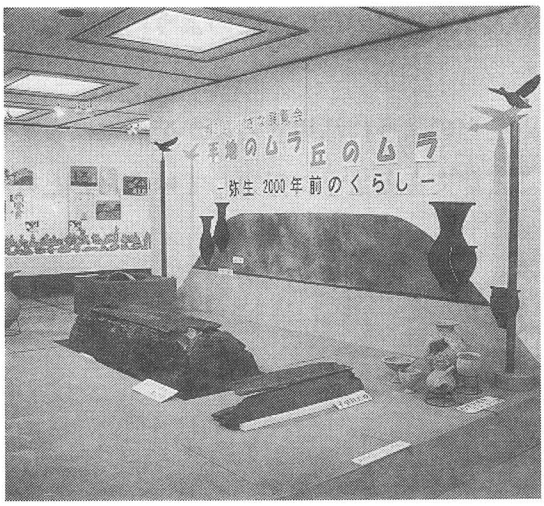
総数　4,819人（延べ　104,556人）

4．新池ハニワ工場公園見学者数

総数　19,412人（工場館入館者　14,312人）

1．ハニワづくりと写生大会

2．ハニワづくりと写生大会の作品



3．小さな展覧会(1)

4．小さな展覧会(2)

あとがき

平成８年度の埋蔵文化財の調査は嶋上郡衙跡周辺を中心にすすめられました。個人住宅等の建設に伴うものについては多くが『嶋上遺跡群21』に収録されていますが、とくに注目される調査５件を調査概要としてまとめました。

嶋上郡衙跡周辺の調査では史跡指定地の東側と北側で、弥生時代後半の竪穴住居跡や奈良時代の建物跡などが検出されています。いずれも嶋上郡衙の成立や展開を考えるうえで重要な資料といえます。高槻城跡では堀跡や井戸などが検出され、高槻城の構造やくらしを知ることができました。新池遺跡では６世紀の工房とみられる竪穴住居跡などが検出され、大規模なハニワづくりシステムについて新たな資料を得ることができました。萩谷銅鉱山跡は北摂地域における殖産興業を知る手掛かりを与えてくれました。近代の鉱山技術などについての調査例は少なく、今後の調査・研究に良好な資料を得ることができました。

文化財保護啓発事業として、写生とハニワづくり大会・小さな展覧会を開催しました。新池ハニワ工場公園を市民に親しんでもらい、また市内の各遺跡から出土した遺物に接することにより文化財に対する理解が深まるように前年度から実施しているものです。

写生とハニワづくり大会では、実際にハニワづくりを体験していただき、古代のハニワづくりがより身近に感じていただきました。また、作品が展示された会場では子供たちの想像力のたくましさが話題になっていました。

小さな展覧会では安満遺跡など弥生時代遺跡から出土した遺物を展示し、弥生時代のくらしを再現、紹介しました。講演会では弥生時代の人々が周囲の環境をどのように利用し、克服していったのか具体的に知ることができました。

平成８年度も整備された史跡や出土した文化財をどのように活用するのかを課題に事業を進めてきましたが、今後も祖先の生活に接することができるように努力してゆきたいと考えています。

（橋本）

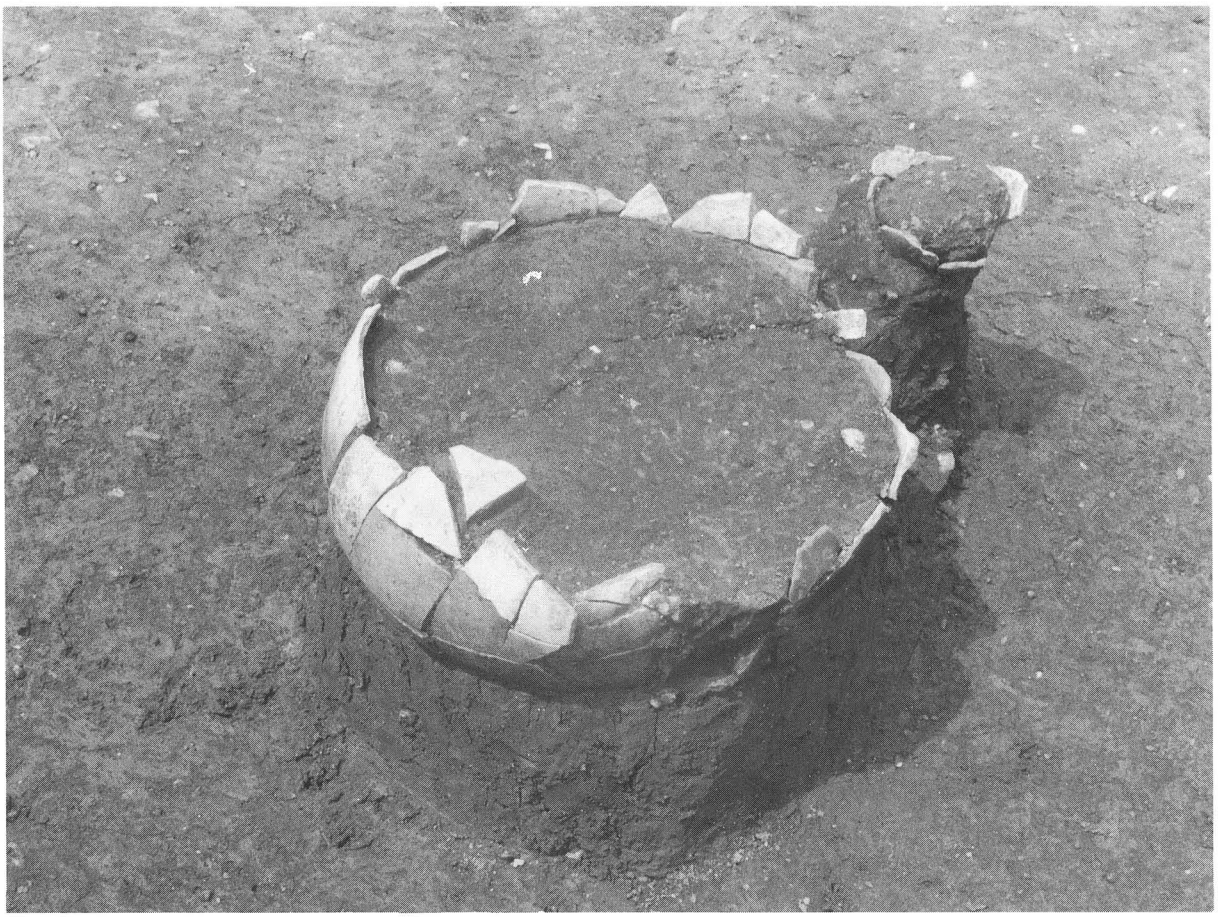
図　　版

a．嶋上郡衙跡（38－B・F地区）　調査区全景（北側から）

b．嶋上郡衙跡（38－B・F地区）　調査区全景（南側から）

a．嶋上郡衙跡（38－B・F地区）　土壙墓群（北東側から）

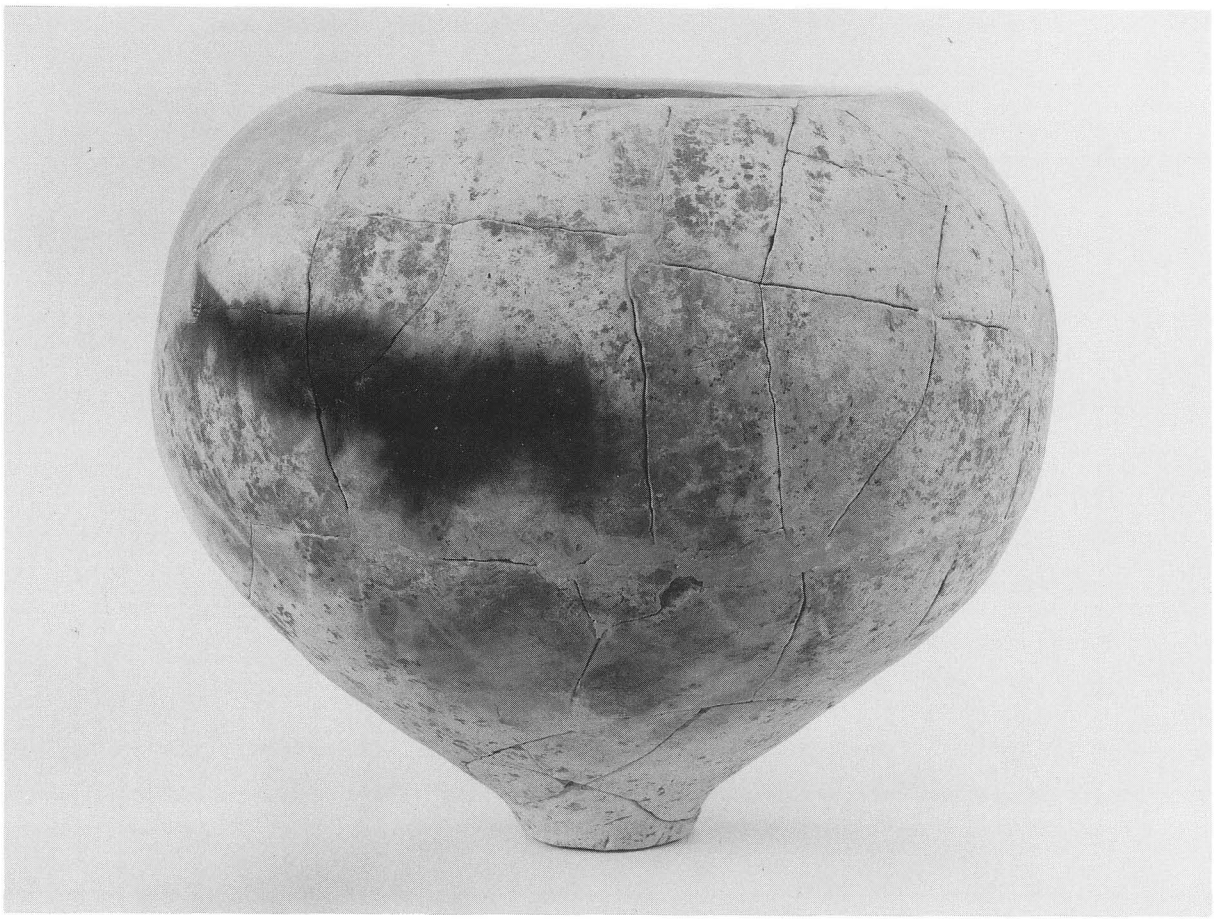
b．嶋上郡衙跡（38－B・F地区）　竪穴住居1（西側から）



a．嶋上郡衙跡（38－B・F地区）　土器棺1（南側から）

b．嶋上郡衙跡（38－B・F地区）　土器棺2（北側から）

嶋上郡衙跡（38－B・F地区）出土遺物　竪穴住居1（1～3）　包含層（4～6）



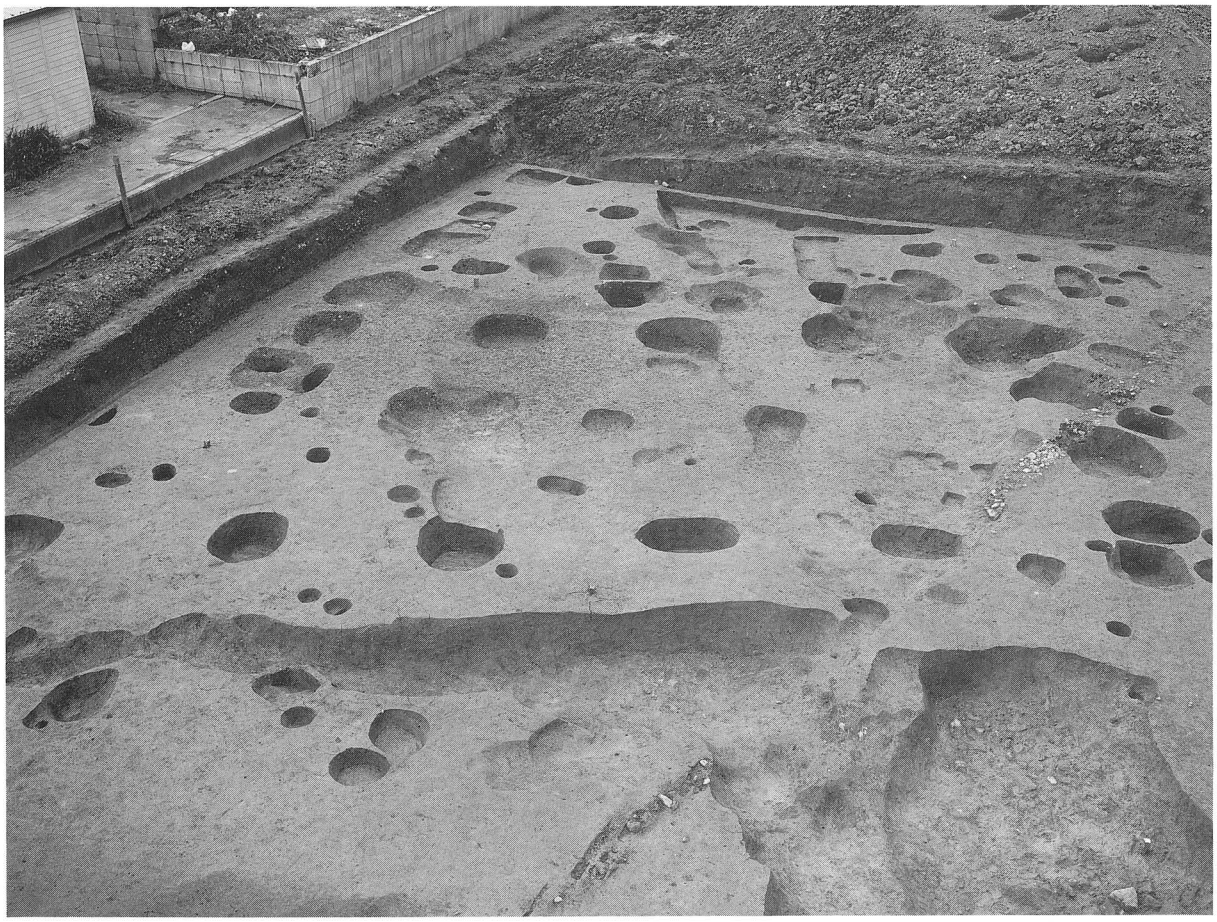
a．嶋上郡衙跡（38－B・F地区）　土器棺1

b．嶋上郡衙跡（38－B・F地区）　土器棺2

a．嶋上郡衙跡（15－G・H地区）　A区東半部（東側から）

b．嶋上郡衙跡（15－G・H地区）　B区全景（東側から）

a．嶋上郡衙跡（15－G・H地区）　住居1（東側から）



b．嶋上郡衙跡（15－G・H地区）　建物2（西側から）

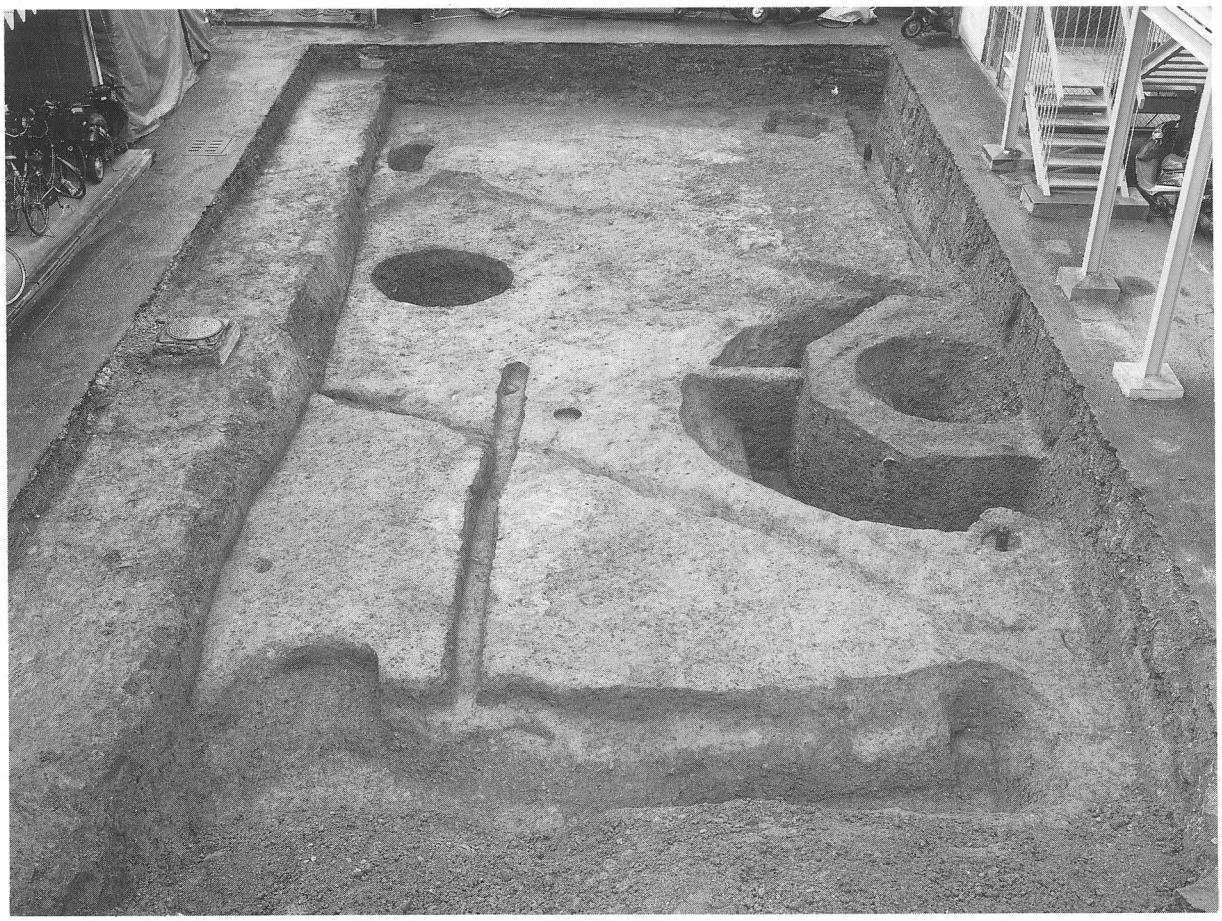
a．嶋上郡衙跡（15－G・H地区）　土壙墓１（東側から）

b．嶋上郡衙跡（15－G・H地区）　土壙墓１土器出土状況（南側から）

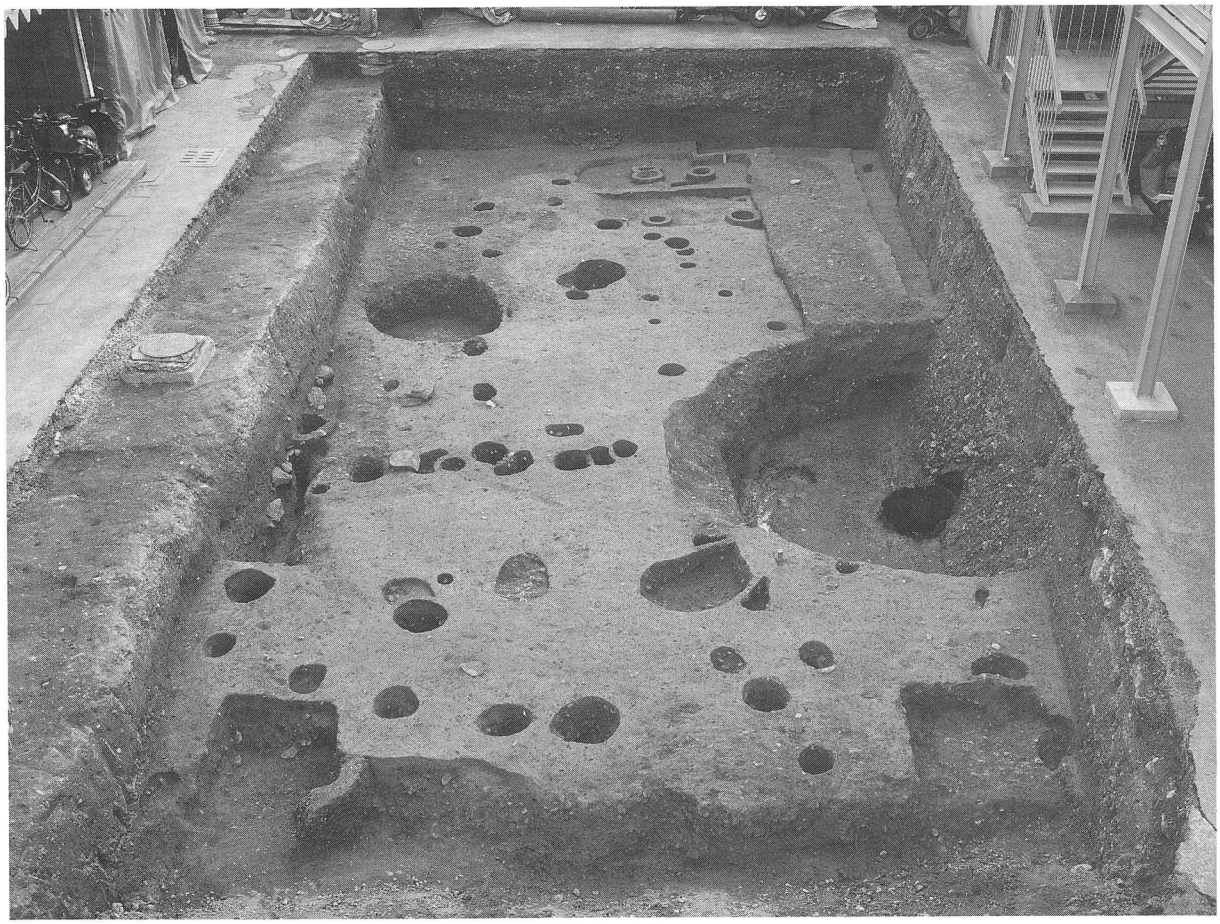
嶋上郡衙跡（15－G・H地区）　土壙墓1（24～31）落ち込み2（33～36）ピット（37）
包含層（38～41）

a．高槻城三ノ丸跡　A区　全景（南東側から）

b．高槻城三ノ丸跡　A区　外堀検出状況（西側から）



a．高槻城三ノ丸跡　B区　上層遺構（北側から）



b．高槻城三ノ丸跡　B区　下層遺構（北側から）

a．新池遺跡　1995年度調査区全景（東側から）

b．新池遺跡　工房５（南側から）